

文部科学省委託事業

令和6年度「地方やデジタル分野における専修学校理系転換等推進事業」
『地域中小企業と連携によるIT担当者育成・採用促進モデル開発と普及推進事業』

高校生地域進路意識調査報告書

学校法人 YIC 学院

目次

1. 事業の目的	1
2. アンケート調査の趣旨・目的.....	1
3. 高校生地域進路意識のアンケート調査	1
3-1. 調査方法.....	1
3-2. 調査項目	2
3-3. 調査結果	4
4. 講評	74

1. 事業の目的

IT 関連製品・サービスを提供する IT ベンダーやユーザ企業の情報システム部門で活躍する IT 人材が 2030 年には 45 万人不足するとの試算がある中、働き盛りの若者人口が少ない地方都市では、コロナ禍後の経済活動活発化に伴い人材不足が深刻化している。産業活性化・人口減少対策として、魅力ある働き先としての企業誘致に力を入れるため、誘致企業にとって大きな魅力となる人材採用・育成のための地域密着型職業教育機関との連携は不可欠である。

本事業では、以上のような地域ニーズに応えるため、中小企業で働くために必要とされる「汎用的かつ多様な能力・スキルを強みとし、協働的な働き方で ICT 技術を駆使して積極的に課題解決に取り組める人材」を育成することを目指す。

2. アンケート調査の趣旨・目的

この調査は、高校生の地域進路意識、進学・就職希望状況を把握し、工業専門課程の必要性を検討することで、高校生の地域将来に対する希望や不安を理解し、進路選択支援に役立てることを目的とする。現在の進路希望状況を把握し、将来像・地域に対する意識を分析することで、工業専門課程の必要性・魅力・進学メリットを明確にすることで進学する価値を見出すことを目指す。

3. 高校生地域進路意識のアンケート調査

3-1. 調査方法

(1) 調査手法

高校への持参(1000 件)および Google フォームにてアンケート調査を実施した。

(2) 調査対象

山口県内の高等学校複数校の生徒(1~3 年生)を対象とした。

(3) アンケート実施(内訳)

対象…………… 山口県内の高等学校の1～3年生の生徒

合計…………… 1000人分のアンケートを各高等学校へ持参した。

回答数 …… 山口県に所在する19高等学校より合計576名の生徒より回答を得た

(4) 調査日程

令和6年11月11日～令和6年11月28日

(5) 回収結果

有効回答数576件(有効回収率57.6%)

3-2. 調査項目

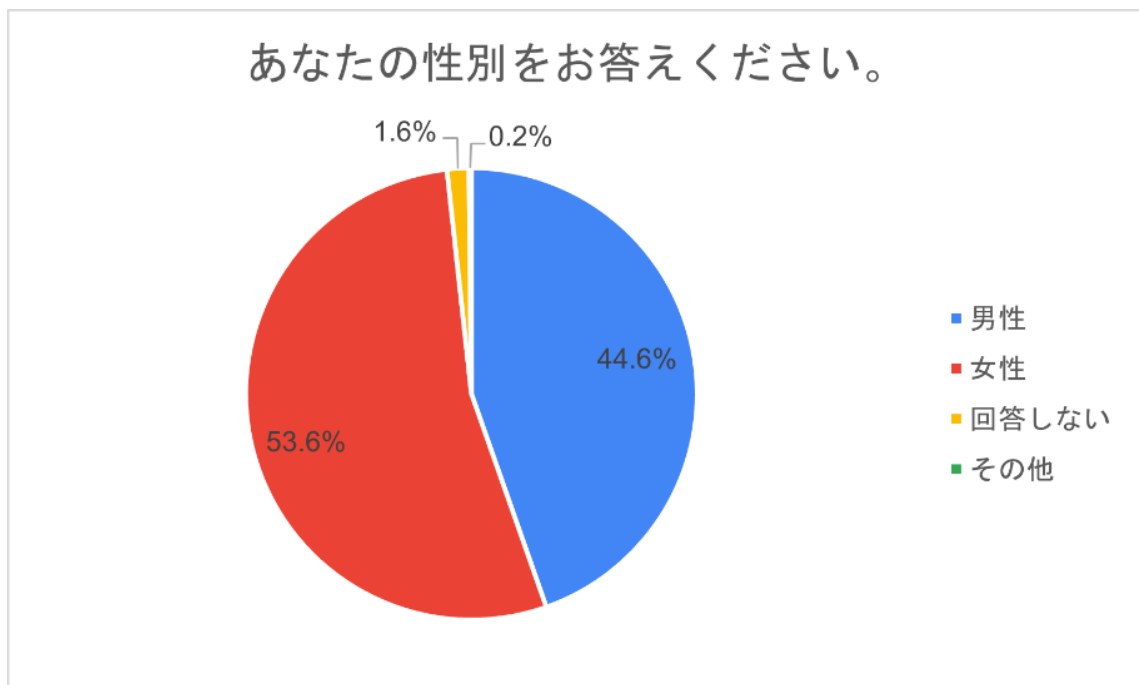
A 基礎情報
①回答者情報 ②年齢 ③居住地 ④在籍高校名・学科・学年
B 進路希望状況
①進路 ②(進学)相談相手 ③(進学)進路分野・進学先・進学地 ④(進学)将来の就職業種・職種・具体的職業名 ⑤(就職)就職地 ⑥(就職)就職業種・職種・具体的職業名 ⑦(就職)希望勤務形態
C キャリアプラン
①非認知力(今の自分) ②社会基礎力 ③職業選択基準

D 専修学校に対するイメージ
<ul style="list-style-type: none"> ①イメージ ②進学価値(メリット・デメリット) ③進学環境
E 山口県に対するイメージ
<ul style="list-style-type: none"> ①イメージ ②居住希望
F ITコミュニケーション
<ul style="list-style-type: none"> ①SNS利用媒体 ②SNS発信媒体
G 今後について
<ul style="list-style-type: none"> ①企業説明会への興味

3-3. 調査結果

【問1】 回答者情報(性別)

男性	257
女性	309
回答しない	9
その他	1

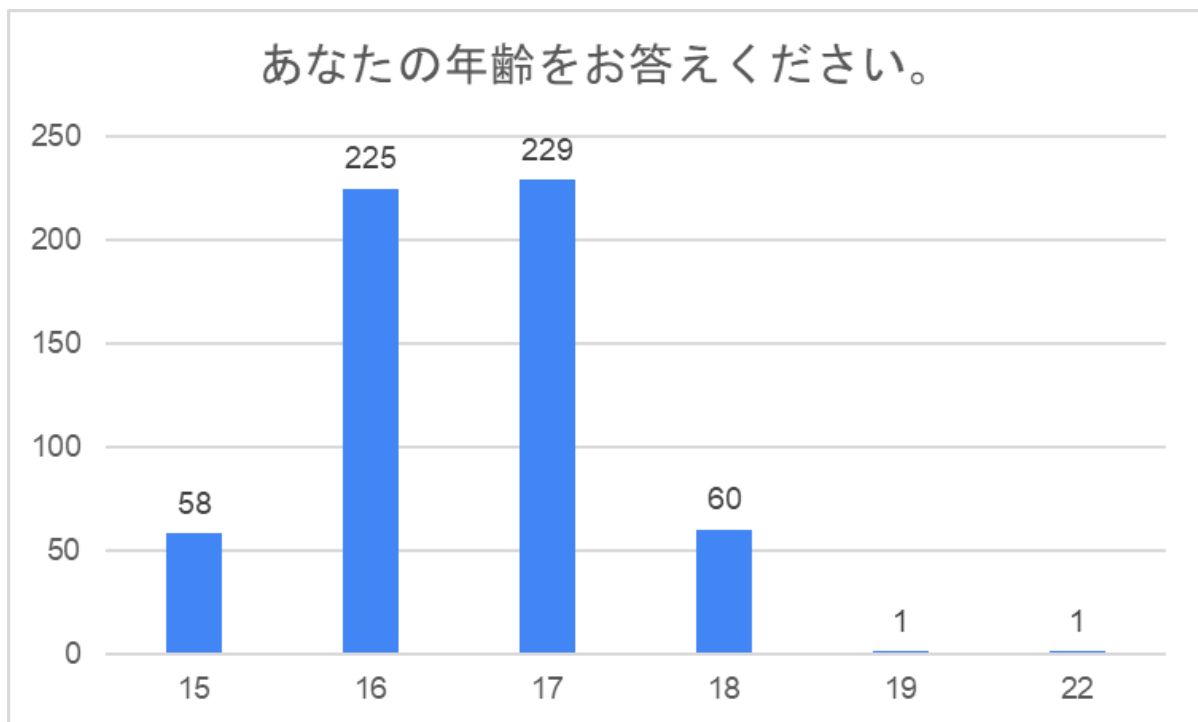


本調査の回答で多いものから順に、女性 309 人(53.6%)、男性 257 人(44.6%)であった。男女ともに多くの回答を得ることができた。

【問 2】 回答者情報(年齢)

15	58
16	225
17	229
18	60
19	1
22	1
総計	574

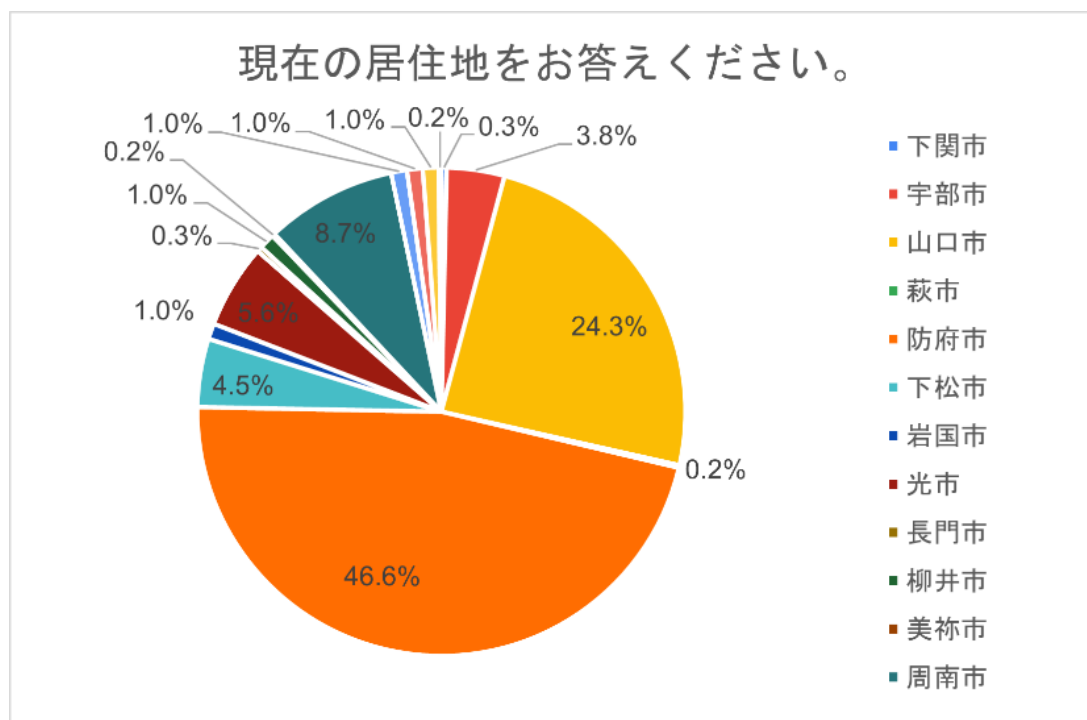
※年齢の明らかに誤入力があった 2 件は対象除外としている。



本調査の回答で多いものから順に、17 歳 229 件、16 歳 225 件、18 歳 60 件、満年齢のため 16 歳・17 歳の回答が多く、高校 2 年生が回答者の大半であることがわかる。

【問 3】 回答者情報(居住地)

下関市	2
宇部市	22
山口市	140
萩市	1
防府市	268
下松市	26
岩国市	6
光市	32
長門市	2
柳井市	6
美祢市	1
周南市	50
山陽小野田市	6
田布施町	6
平生町	6
阿武町	1



本調査の回答で多いものから順に、防府市268件(46.6%)、山口市 140 件(24.3%)、周南市 50 件(8.7%)であった。広範囲の学生から回答を得ることができた。

【問 4】 在籍校情報(高校名)

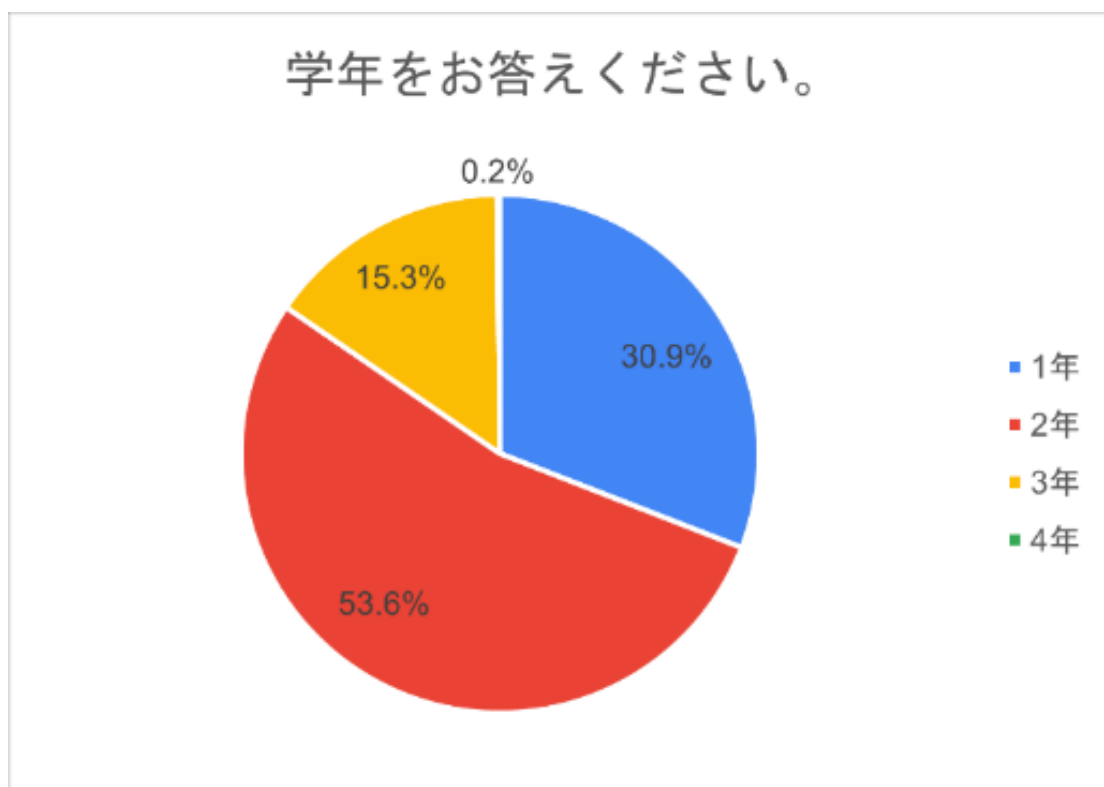
※実際の高校名は匿名化して掲載した。

※回答数が一桁の学校は「その他」回答欄へ集約した。

高校名	件数
A 高等学校	292
B 高等学校	84
C 高等学校	80
D 高等学校	57
(その他・高等学校)	31
(不明:未回答)	32
総計	576

【問 5】 在籍校情報(学年)

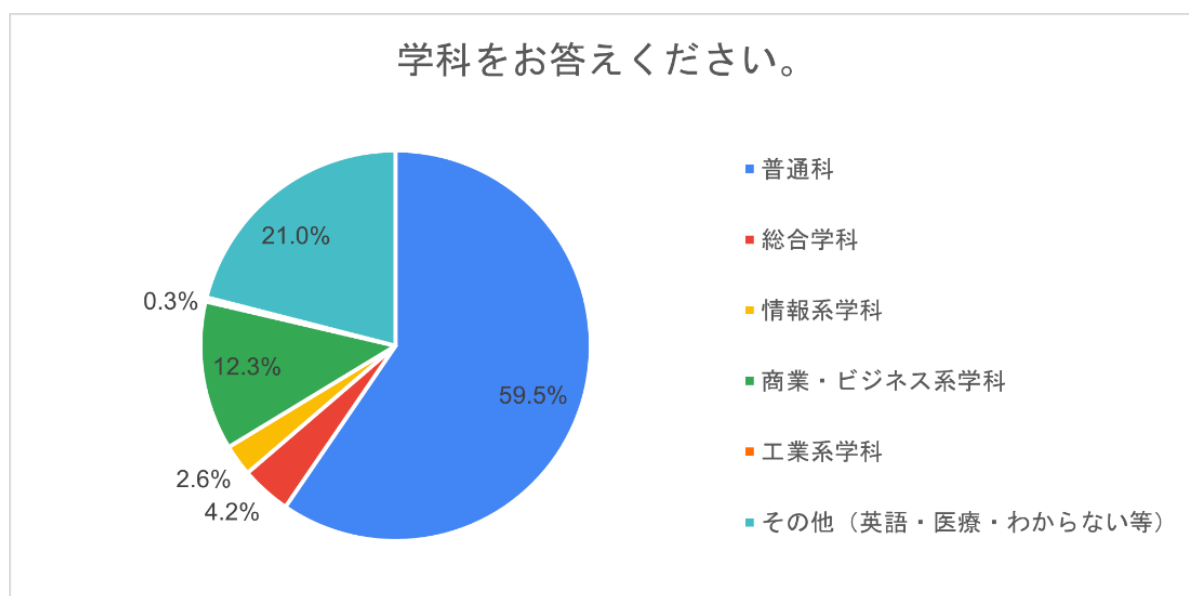
1年	178
2年	309
3年	88
4年	1



本調査の回答で多いものから順に、2年 309件(53.6%)、1年 178件(30.9%)、3年 88件(15.3%)であった。これから具体的な進路を考えていく立場になる2年生が本調査に一番関心を示したと思われる。

【問 6】 在籍校情報(学科名)

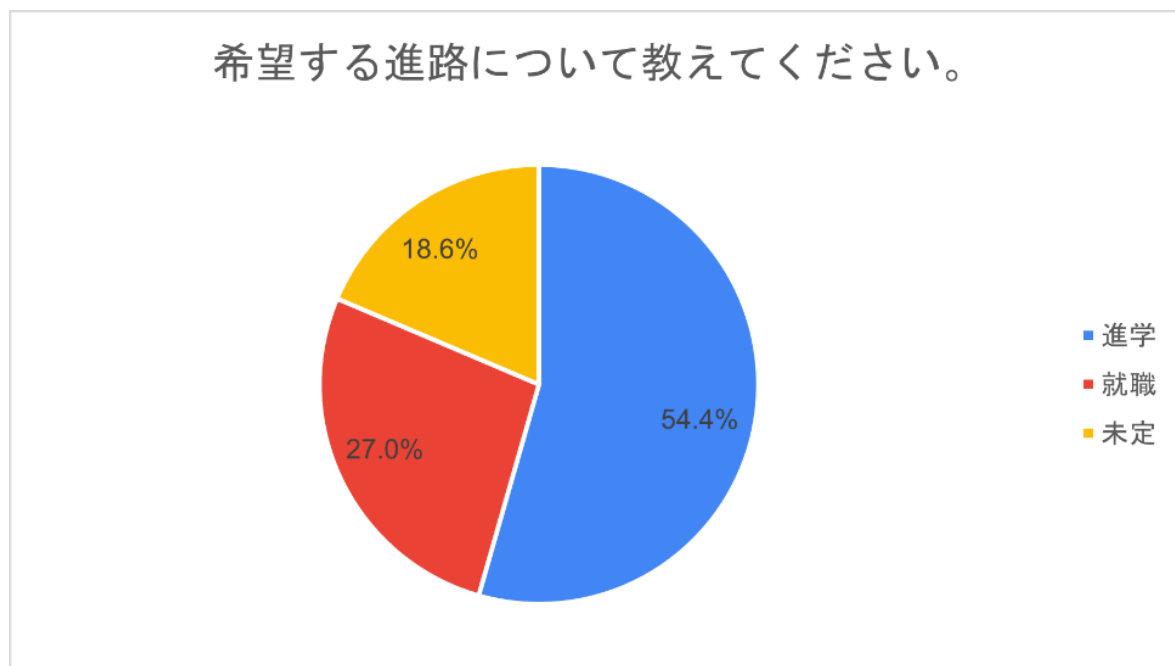
普通科	343
総合学科	24
情報系学科	15
商業・ビジネス系学科	71
工業系学科	2
その他(英語・医療・わからない等)	121



本調査の回答で多いものから順に、普通科 343 件(59.5%)、その他(英語・医療・わからない等) 121 件(21.0%)、商業・ビジネス系学科 71 件(12.3%)であった。本結果は県内の各学科の母数の影響も大きい。

【問 7】 進路希望情報

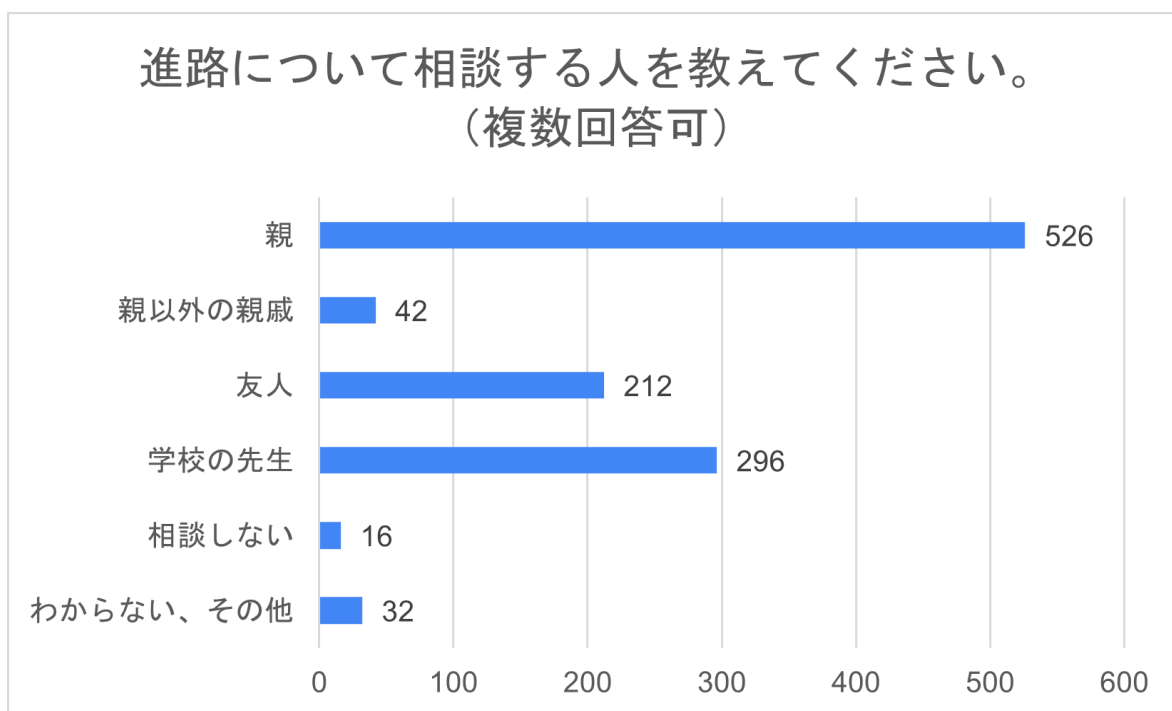
進学	313
就職	155
未定	107



本調査の回答で多いものから順に、進学 313 件(54.4%)、就職 155 件(27.0%)、未定 107 件(18.6%)であった。全体の半数以上が進学を希望していることが分かるが、就職希望者も約 3 割と少なくない。

【問 8】 進路希望情報(相談相手)

親	526
親以外の親戚	42
友人	212
学校の先生	296
相談しない	16
わからない、その他	32

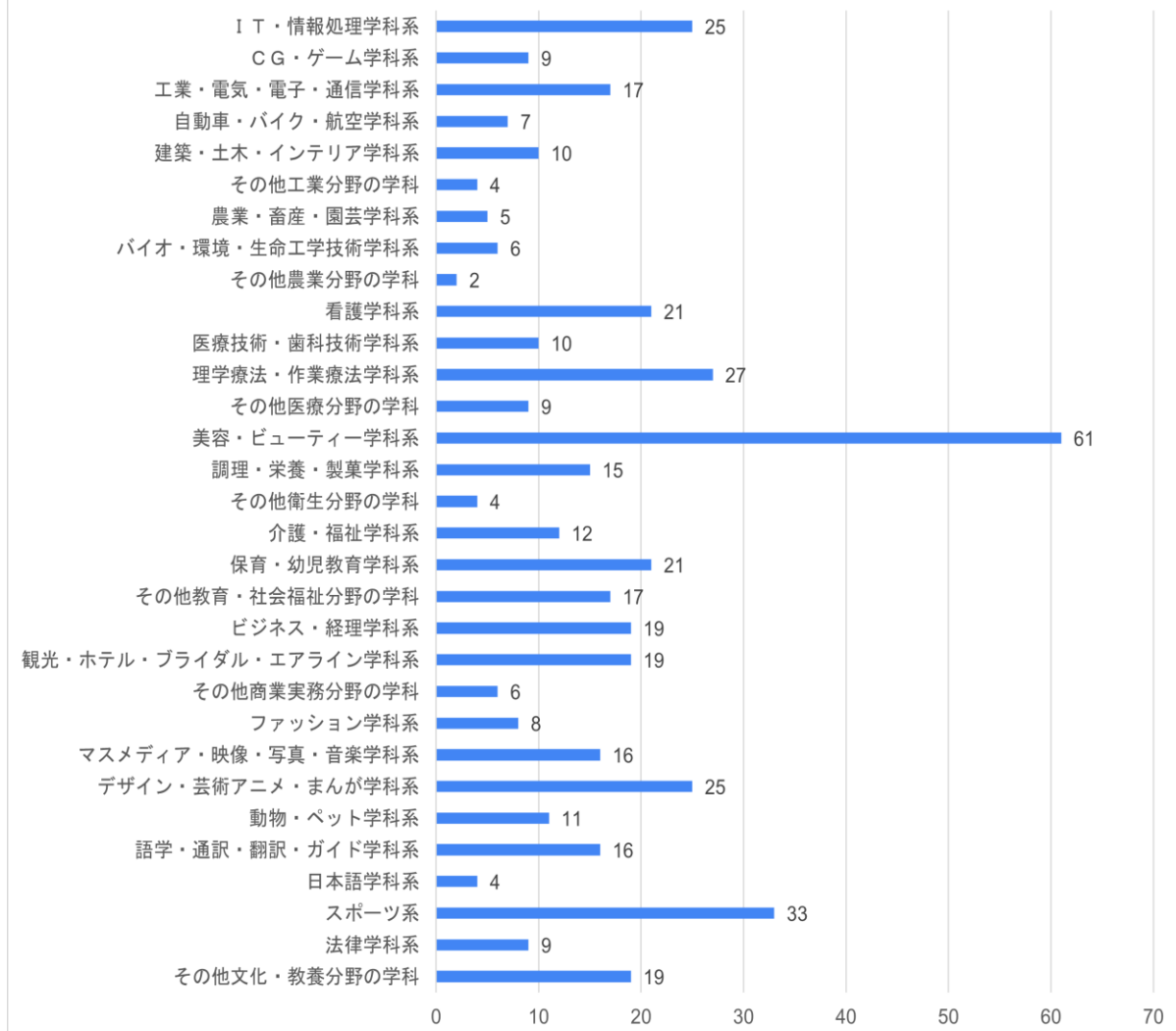


本調査の回答で多いものから順に、親 526 件、学校の先生 296 件、友人 212 件であった。日頃のコミュニケーションが頻繁に行える存在が相談相手になる傾向が強い。

【問 9】 進学希望状況(進学分野)

IT・情報処理工学科系	25
CG・ゲーム学科系	9
工業・電気・電子・通信学科系	17
自動車・バイク・航空学科系	7
建築・土木・インテリア学科系	10
その他工業分野の学科	4
農業・畜産・園芸学科系	5
バイオ・環境・生命工学技術学科系	6
その他農業分野の学科	2
看護学科系	21
医療技術・歯科技術学科系	10
理学療法・作業療法学科系	27
その他医療分野の学科	9
美容・ビューティー学科系	61
調理・栄養・製菓学科系	15
その他衛生分野の学科	4
介護・福祉学科系	12
保育・幼児教育学科系	21
その他教育・社会福祉分野の学科	17
ビジネス・経理学科系	19
観光・ホテル・ブライダル・エアライン学科系	19
その他商業実務分野の学科	6
ファッション学科系	8
マスメディア・映像・写真・音楽学科系	16
デザイン・芸術アニメ・まんが学科系	25
動物・ペット学科系	11
語学・通訳・翻訳・ガイド学科系	16
日本語学科系	4
スポーツ系	33
法律学科系	9
その他文化・教養分野の学科	19

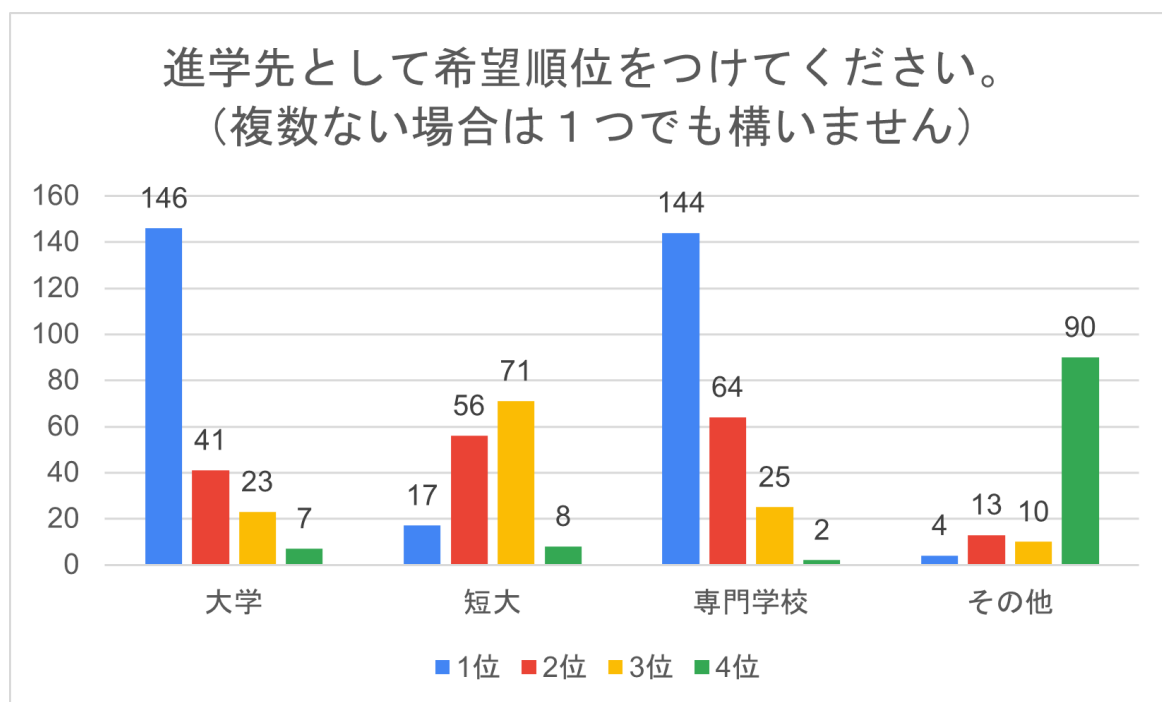
進学を選んだ方は学部・学科系統をお答えください。（複数回答可）



本調査の回答で多いものから順に、美容・ビューティー学科系 61 件、スポーツ系 33 件、理学療法・作業療法学科系 27 件であった。美容・ビューティー学科系希望者数は突出しているが、それ以外の学科は大きな差は見られない。

【問 10】 進学希望状況(進学先)

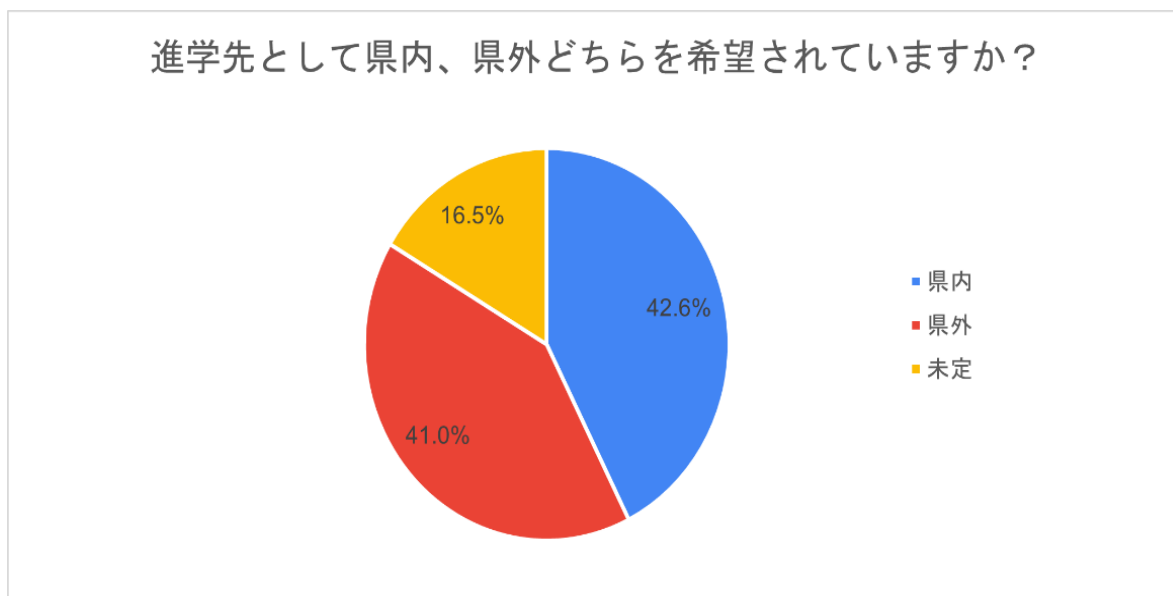
	大学	短大	専門学校	その他
1位	146	17	144	4
2位	41	56	64	13
3位	23	71	25	10
4位	7	8	2	90



本調査で希望順位一位と回答した項目で一番目に多いのが、大学 146 件で、二番目に多いのが専門学校 144 件で、三番目に多いのが短大 17 件だった。大学と専門学校の票数は僅差で、短大・その他と大きく差が開いている。

【問 11】 進学希望状況(進学地)

県内	132
県外	127
未定	51



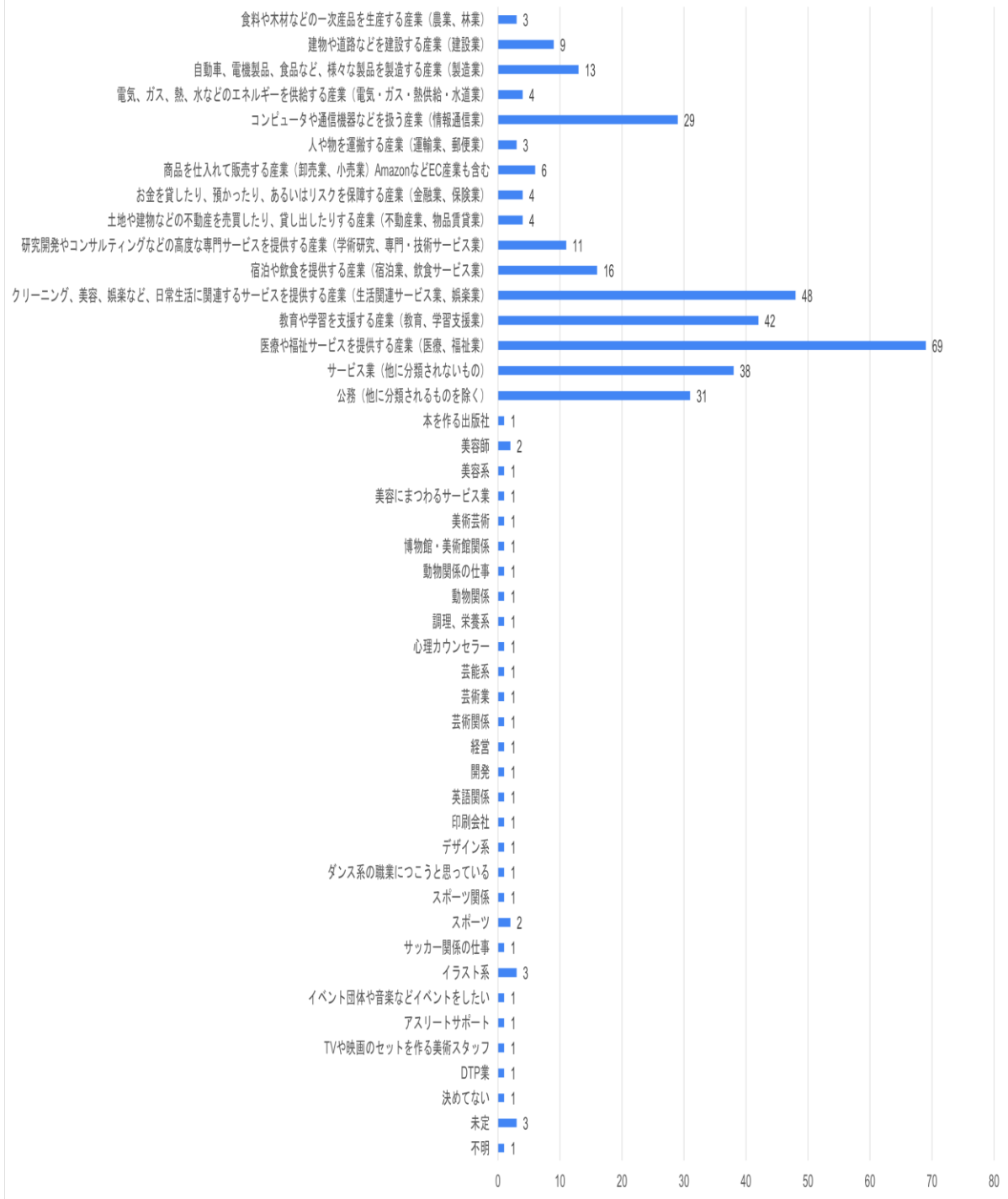
本調査の回答で多いものから順に、県内 132 件(42.6%)、県外 127 件(41.0%)、未定 51 件(16.5%)であった。県内・県外どちらも票数はほぼ同じで、地元にとどまらない学生も一定以上いることが分かる。

【問 12】 進学後、就職希望状況(就職先業種)

食料や木材などの一次産品を生産する産業(農業、林業)	3
建物や道路などを建設する産業(建設業)	9
自動車、電機製品、食品など、様々な製品を製造する産業(製造業)	13
電気、ガス、熱、水などのエネルギーを供給する産業(電気・ガス・熱供給・水道業)	4
コンピュータや通信機器などを扱う産業(情報通信業)	29
人や物を運搬する産業(運輸業、郵便業)	3
商品を仕入れて販売する産業(卸売業、小売業)Amazon など EC 産業も含む	6
お金を貸したり、預かったり、あるいはリスクを保障する産業(金融業、保険業)	4
土地や建物などの不動産を売買したり、貸し出したりする産業(不動産業、物品賃貸業)	4
研究開発やコンサルティングなどの高度な専門サービスを提供する産業(学術研究、専門・技術サービス業)	11
宿泊や飲食を提供する産業(宿泊業、飲食サービス業)	16
クリーニング、美容、娯楽など、日常生活に関連するサービスを提供する産業(生活関連サービス業、娯楽業)	48
教育や学習を支援する産業(教育、学習支援業)	42
医療や福祉サービスを提供する産業(医療、福祉業)	69
サービス業(他に分類されないもの)	38
公務(他に分類されるものを除く)	31
本を作る出版社	1
美容師	2
美容系	1
美容にまつわるサービス業	1
美術芸術	1
博物館・美術館関係	1
動物関係の仕事	1
動物関係	1
調理、栄養系	1
心理カウンセラー	1
芸能系	1
芸術業	1
芸術関係	1
経営	1
開発	1
英語関係	1
印刷会社	1

デザイン系	1
ダンス系の職業につこうと思っている	1
スポーツ関係	1
スポーツ	2
サッカー関係の仕事	1
イラスト系	3
イベント団体や音楽などイベントをしたい	1
アスリートサポート	1
TV や映画のセットを作る美術スタッフ	1
DTP 業	1
決めてない	1
未定	3
不明	1

将来の就職先として現在どんな業種を考えていますか？（複数回答可）

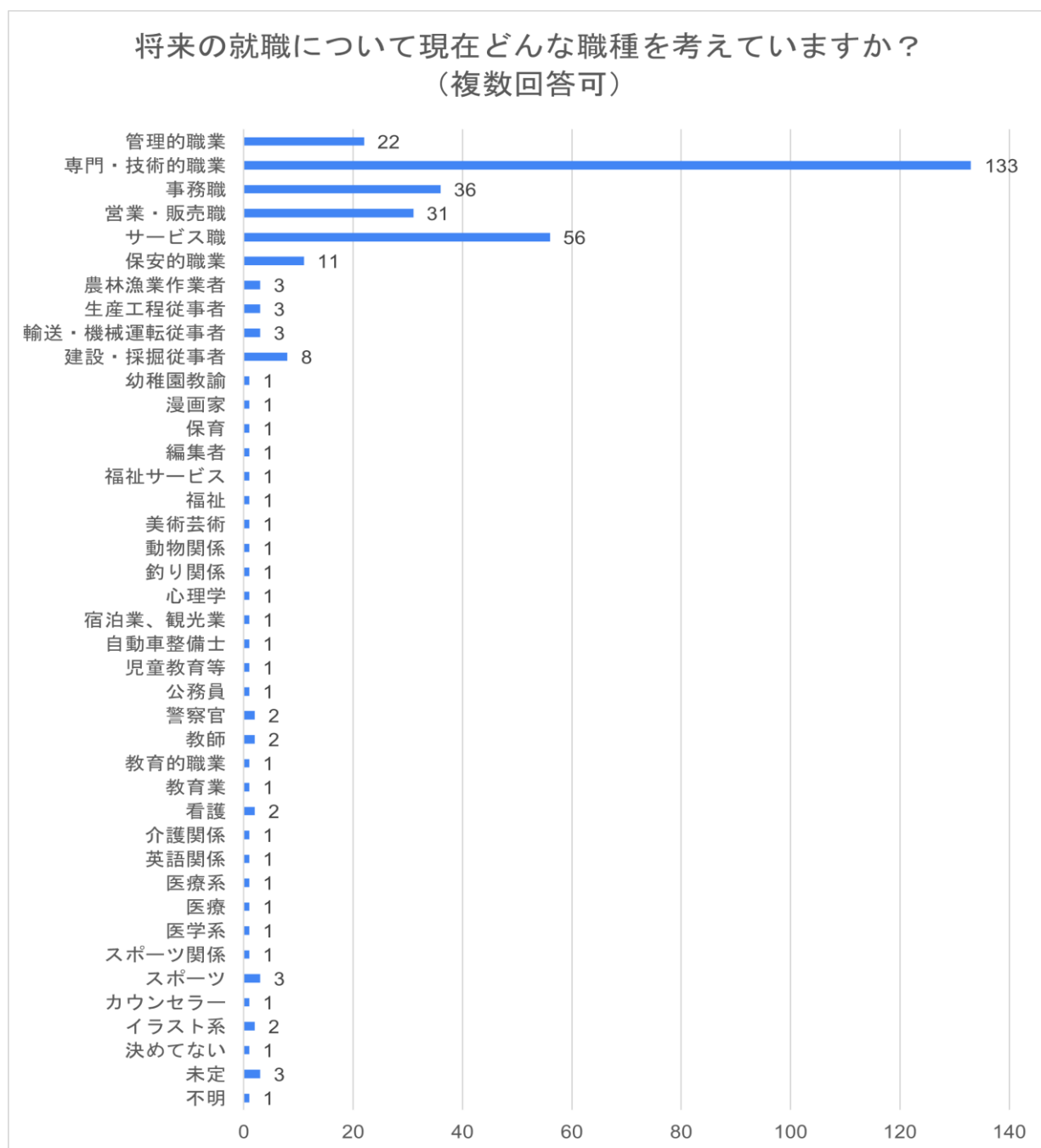


本調査の回答で多いものから順に、医療や福祉サービスを提供する産業(医療、福祉業)69件、クリーニング、美容、娯楽など、日常生活に関連するサービスを提供する産業(生活関連サービス業、娯楽業)48件、教育や学習を支援する産業(教育、学習支援業)42件であった。その他サービス業や情報通信業も多くの回答が集まっている。

【問 13】進学後、就職希望状況(就職先職種)

管理的職業	22
専門・技術的職業	133
事務職	36
営業・販売職	31
サービス職	56
保安的職業	11
農林漁業作業者	3
生産工程従事者	3
輸送・機械運転従事者	3
建設・採掘従事者	8
幼稚園教諭	1
漫画家	1
保育	1
編集者	1
福祉サービス	1
福祉	1
美術芸術	1
動物関係	1
釣り関係	1
心理学	1
宿泊業、観光業	1
自動車整備士	1
児童教育等	1
公務員	1
警察官	2
教師	2
教育的職業	1
教育業	1
看護	2
介護関係	1
英語関係	1
医療系	1
医療	1
医学系	1
スポーツ関係	1

スポーツ	3
カウンセラー	1
イラスト系	2
決めてない	1
未定	3
不明	1



本調査の回答で多いものから順に、専門・技術的職業 133 件、サービス業 56 件、事務職 36 件であった。前項の結果からも専門の資格や技術を用いた職業の希望は多いことが分かる。

【問 14】 進学後、就職希望状況(具体的職業名)

●具体的な職業名がある方は職業名を教えてください。

※自由記述を「同系統の職業」でまとめ、その合計件数を示した。また、同一カテゴリ内で具体的な職業名が挙がっている場合には、その例も列記している。一部の職業は複合的な表現になっているため、該当するすべての系統にカウントした。(例:「美容師、トリマー」は「美容系」と「動物関連」にそれぞれ1件ずつカウント)。

※多い順番にて整列列挙した。()の中は実際の回答。

※重複・類似する回答をまとめ、属性ごとに整理した。

※原文は極力変えず、そのまま記載した。

1. 医療・ヘルスケア系(40件)

(看護師、助産師、理学療法士、臨床心理士、カウンセラー・心理カウンセラー、薬剤師、言語聴覚士、放射線技師、歯科衛生士、医療事務、柔道整復師、鍼灸、作業療法士、医学療法系 など)

2. 美容系(39件)

(美容師、アイリスト、エステティシャン、ヘアメイクアーティスト、ネイリスト、ビューティアドバイザー、美容部員、ブライダリスト、理容師、美容関係トータルビューティー など)

3. クリエイティブ・デザイン・アート系(13件)

(CG アニメーター、アニメーター、漫画家、イラストレーター、WEB デザイナー、ジュエリーデザイナー、グラフィックデザイナー、デザイナー)

4. 教育系(12件)

(情報の教師、学校教員、教員、教師、小学校教員、養護教諭、特別支援学校教諭、塾講師)

5. 公務員系(10件)

(警察官、消防士、国家公務員、市役所職員)

6. スポーツ系(8件)

(サッカー選手、スポーツトレーナー、パーソナルトレーナー、スポーツインストラクター、トレーナー・指導者、アスレチックトレーナー)

7. 食品・調理・栄養系(7件)

(調理師、管理栄養士、食品開発者、料理人、製菓衛生師)

8. 保育・幼児教育系(6件)

(保育士 など)

9. 未定・なし(6件)

(ない、なし、今はない、?、未定)

10. 建築・環境系(5件)

(建築士、建築大工技能士、建築設備エンジニア、環境デザイナー)

11. 芸能・エンタメ系(5件)

(声優、PA エンジニア、コンサートスタッフ、ライブ PA、美術スタッフ)

12. 動物関連(5件)

(動物看護師、トリマー など)

13. 編集・出版・図書館系(4件)

(編集者、図書館司書)

14. サービス・ホスピタリティ系(3件)

(ホテルスタッフ、ウエディングプランナー、ホテルのパン屋さん)

15. 福祉系(3件)

(介護福祉士、社会福祉士)

16. 会計・経理系(2件)

(公認会計士)

17. 技術系(2件)

(電気工事士、自動車整備士)

18. その他(2票)

(船乗り、マイリスト(不明))

19. 研究・学術系(1件)

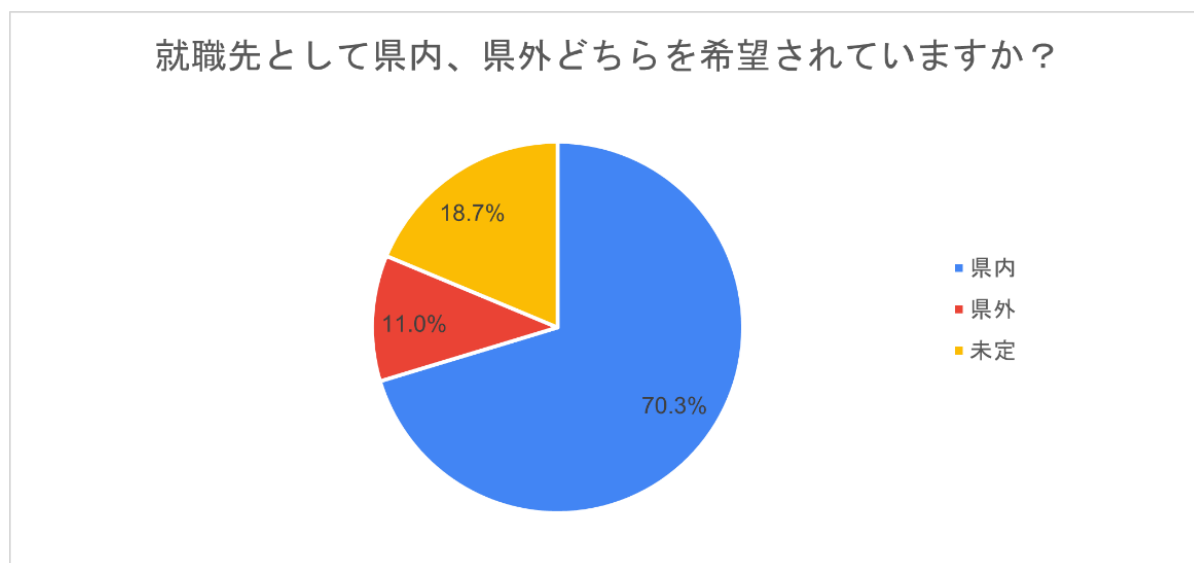
(歴史学者)

20. 通訳・翻訳系(1件)

(通訳)

【問 15】 就職希望状況(就職地)

県内	109
県外	17
未定	29

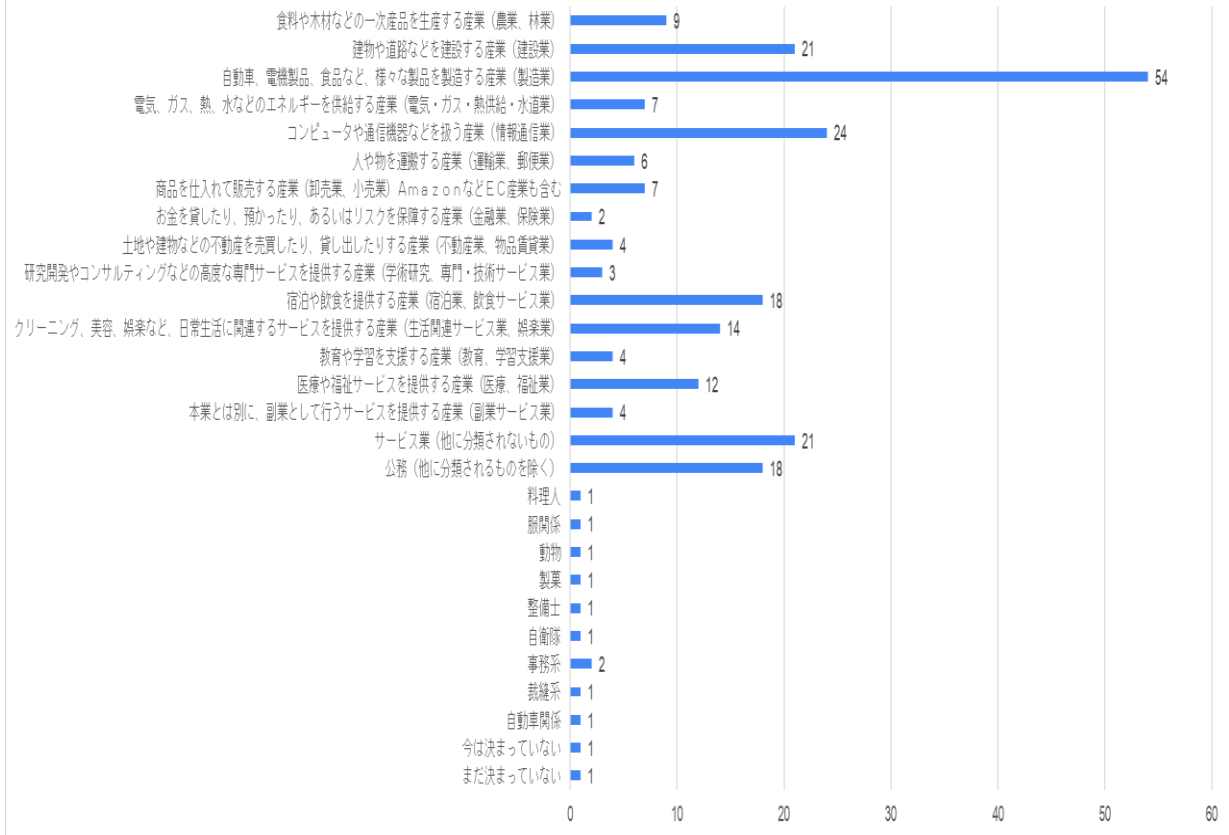


本調査の回答で多いものから順に、県内 109 件(70.3%)、未定 29 件(18.7%)、県外 17 件(11.0%)であった。希望する進路先の結果とは変わり、就職先は県内を希望する学生が多いことが分かる。

【問 16】 就職希望状況(就職先業種)

食料や木材などの一次産品を生産する産業(農業、林業)	9
建物や道路などを建設する産業(建設業)	21
自動車、電機製品、食品など、様々な製品を製造する産業(製造業)	54
電気、ガス、熱、水などのエネルギーを供給する産業(電気・ガス・熱供給・水道業)	7
コンピュータや通信機器などを扱う産業(情報通信業)	24
人や物を運搬する産業(運輸業、郵便業)	6
商品を仕入れて販売する産業(卸売業、小売業)AmazonなどEC産業も含む	7
お金を貸したり、預かったり、あるいはリスクを保障する産業(金融業、保険業)	2
土地や建物などの不動産を売買したり、貸し出したりする産業(不動産業、物品賃貸業)	4
研究開発やコンサルティングなどの高度な専門サービスを提供する産業(学術研究、専門・技術サービス業)	3
宿泊や飲食を提供する産業(宿泊業、飲食サービス業)	18
クリーニング、美容、娯楽など、日常生活に関連するサービスを提供する産業(生活関連サービス業、娯楽業)	14
教育や学習を支援する産業(教育、学習支援業)	4
医療や福祉サービスを提供する産業(医療、福祉業)	12
本業とは別に、副業として行うサービスを提供する産業(副業サービス業)	4
サービス業(他に分類されないもの)	21
公務(他に分類されるものを除く)	18
料理人	1
服関係	1
動物	1
製菓	1
整備士	1
自衛隊	1
事務系	2
裁縫系	1
自動車関係	1
今は決まっていない	1
まだ決まっていない	1

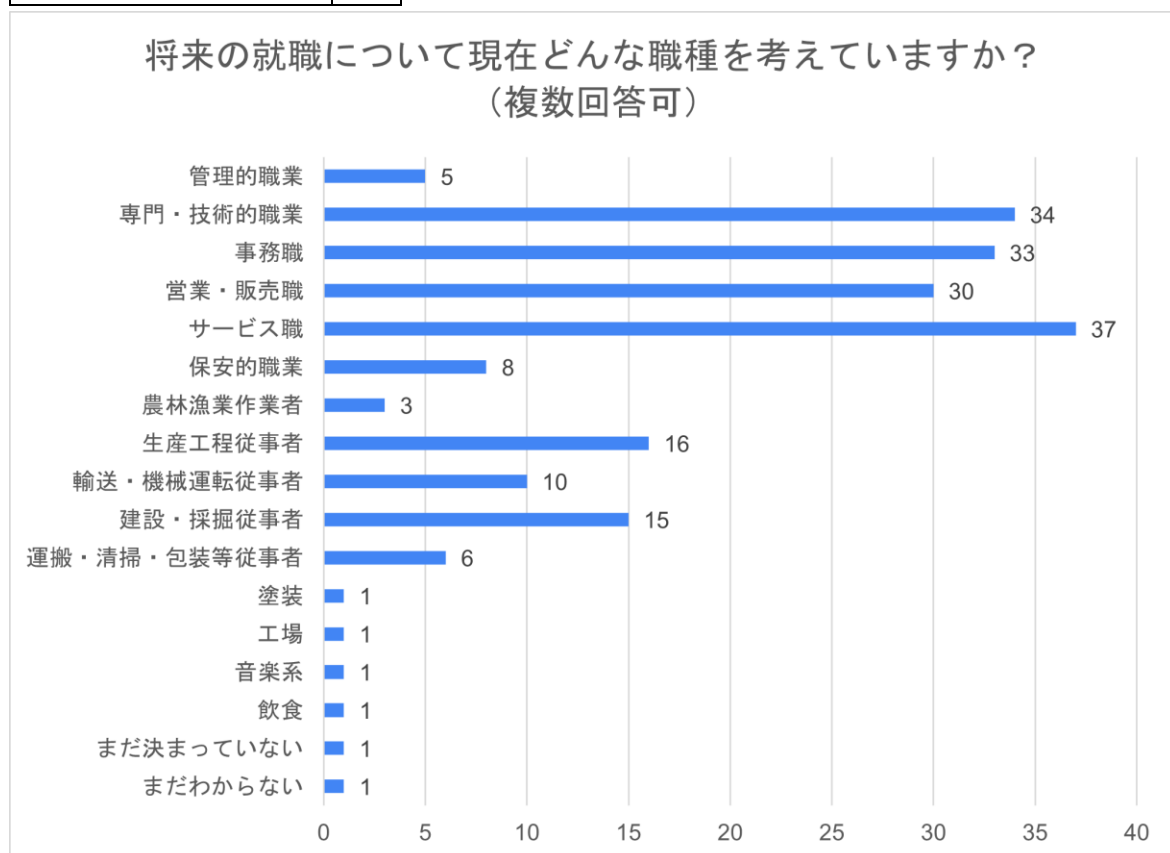
将来の就職先として現在どんな業種を考えていますか？（複数回答可）



本調査の回答で多いものから順に、自動車、電機製品、食品など、様々な製品を製造する産業（製造業）54件、コンピュータや通信機器などを扱う産業（情報通信業）24件、建物や道路などを建設する産業（建設業）・サービス業（他に分類されないもの）21件であった。特に製造業は票が多く集まり、県内産業の特徴とも類似している。

【問 17】 就職希望状況(就職先職種)

管理的職業	5
専門・技術的職業	34
事務職	33
営業・販売職	30
サービス職	37
保安的職業	8
農林漁業作業	3
生産工程従事者	16
輸送・機械運転従事者	10
建設・採掘従事者	15
運搬・清掃・包装等従事者	6
塗装	1
工場	1
音楽系	1
飲食	1
まだ決まっていない	1
まだわからない	1



本調査の回答で多いものから順に、サービス業 37 件、専門・技術的職業 34 件、事務職 33 件であった。また営業・販売職も 30 件と多く、希望する職種が集中している。

【問 18】 就職希望状況(具体的職業名;自由記述)

●具体的な職業名がある方は職業名を教えてください。

※類似する回答は合計数をまとめて表記し一覧とした。

※会社名等の固有名詞は一部回答を加工した。

1. 鉄道運転士系(5件)

・運転士(鉄道関係)(3)、電車の運転士・乗務員(1)、電車運転士(JR 関係)(1)

2. 介護系(6件)

・介護士、介護職、介護福祉士(6)

3. 警察官(3件)

・警察官(3)

4. 自衛隊系(3件)

・自衛隊(2)、陸上自衛隊(1)

5. 「ない」「なし」(5件)

・ない(2)、なし(3)

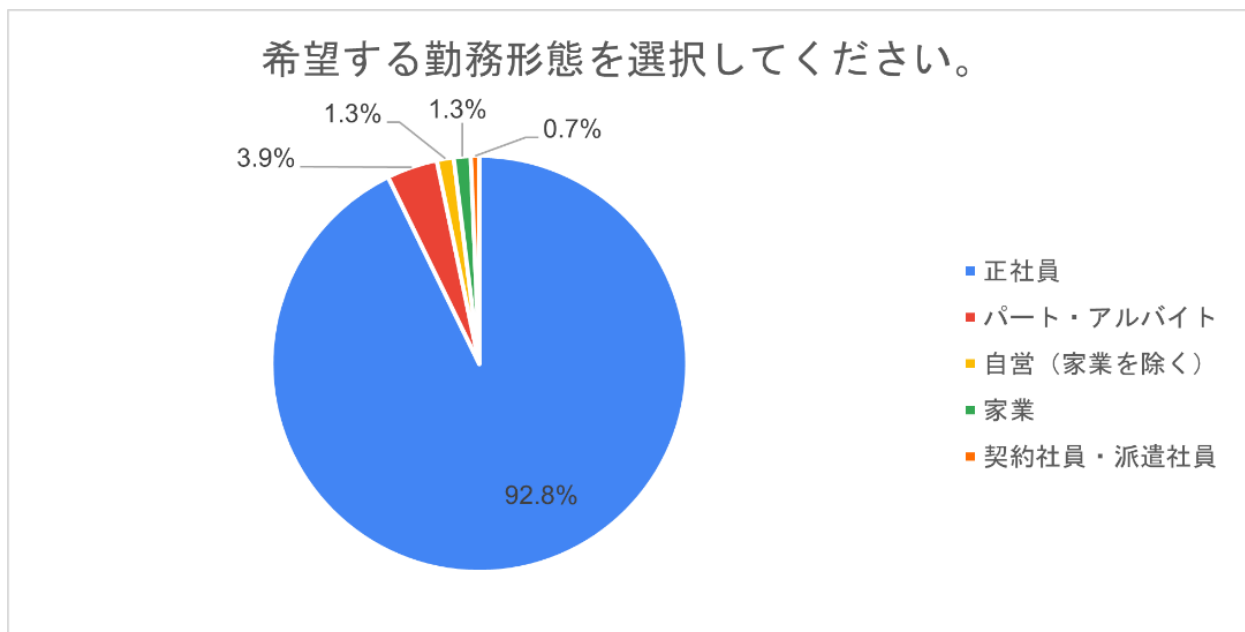
6. その他(13件)

・製菓会社(1)、ウェディングプランナー(1)、ショップ店員(1)、自動車ディーラー(2)、空港セキュリティ(1)、工業(1)、工場勤務(1)、飼育員(1)、事務員(1)、自動車整備士(1)、消防(1)、編集社(1)

全体件数:35件(変更なし)

【問 19】 就職希望状況(勤務形態)

正社員	141
パート・アルバイト	6
自営(家業を除く)	2
家業	2
契約社員・派遣社員	1



本調査の回答で多いものから順に、正社員 141 件(92.8%)、パート・アルバイト 6 件(3.9%)、自営(家業を除く)・家業 2 件(1.3%)であった。正社員希望者が圧倒的に多い。

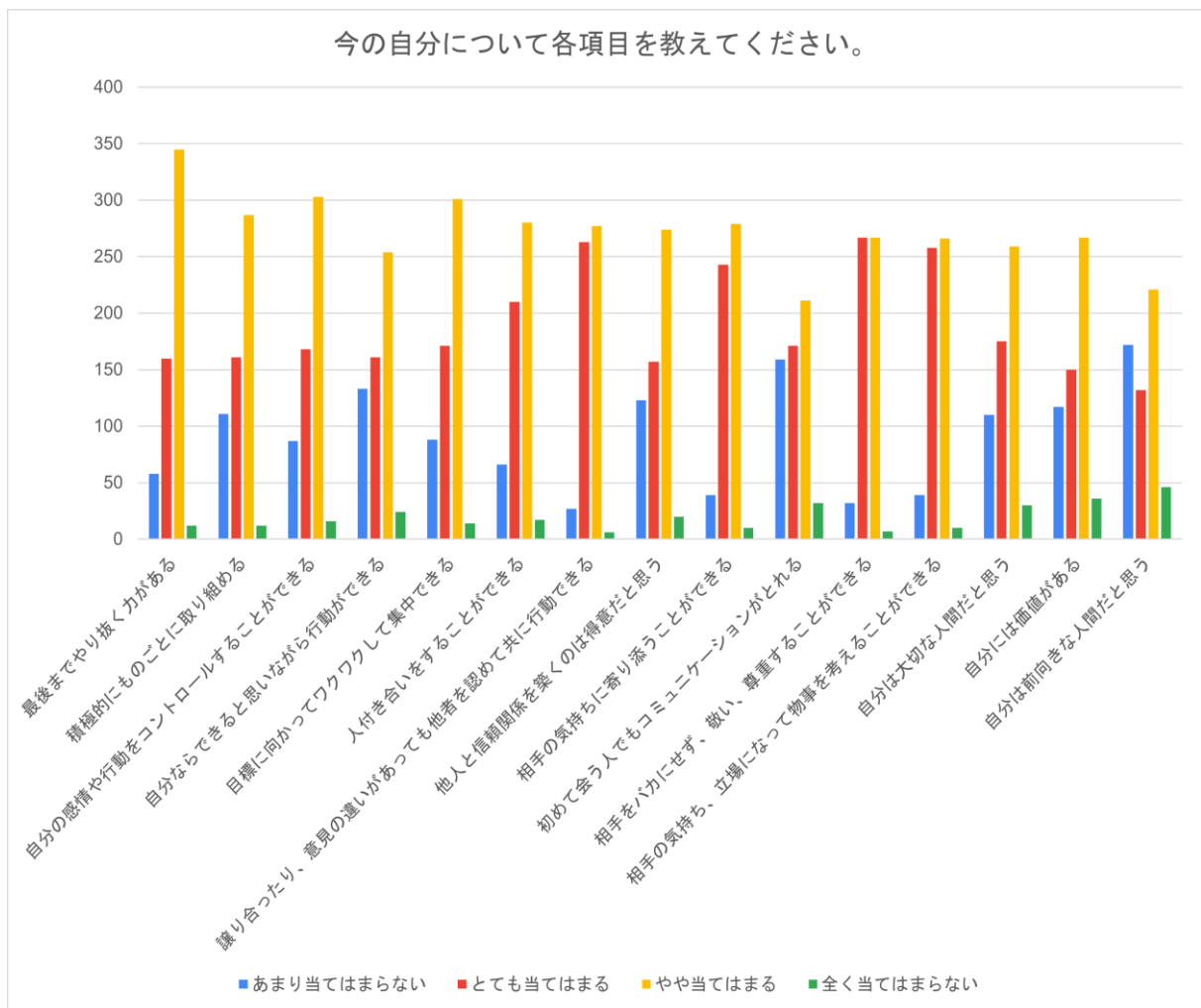
【問 20】 キャリアプラン(非認知力、今の自分)

	最後までやり抜く 力がある	積極的にものごと に取り組める	自分の感情や行動 をコントロールす ることができる	自分ならできると 思いながら行動が できる
あまり当てはまら ない	58	111	87	133
とても当てはまる	160	161	168	161
やや当てはまる	345	287	303	254
全く当てはまらな い	12	12	16	24

	目標に向かってワ クワクして集中で きる	人付き合いをする ことができる	譲り合ったり、意 見の違いがあつて も他者を認めて共 に行動できる	他人と信頼関係を 築くのは得意だど 思う
あまり当てはまら ない	88	66	27	123
とても当てはまる	171	210	263	157
やや当てはまる	301	280	277	274
全く当てはまらな い	14	17	6	20

	相手の気持ちに寄 り添うことができ る	初めて会う人でも コミュニケーション がとれる	相手をバカにせ ず、敬い、尊重す ることができる	相手の気持ち、立場 になって物事を考え ることができる
あまり当てはまら ない	39	159	32	39
とても当てはまる	243	171	267	258
やや当てはまる	279	211	267	266
全く当てはまらな い	10	32	7	10

	自分は大切な人間だど 思う	自分には価値がある	自分は前向きな人間だ と思う
あまり当てはまらな い	110	117	172
とても当てはまる	175	150	132
やや当てはまる	259	267	221
全く当てはまらな い	30	36	46



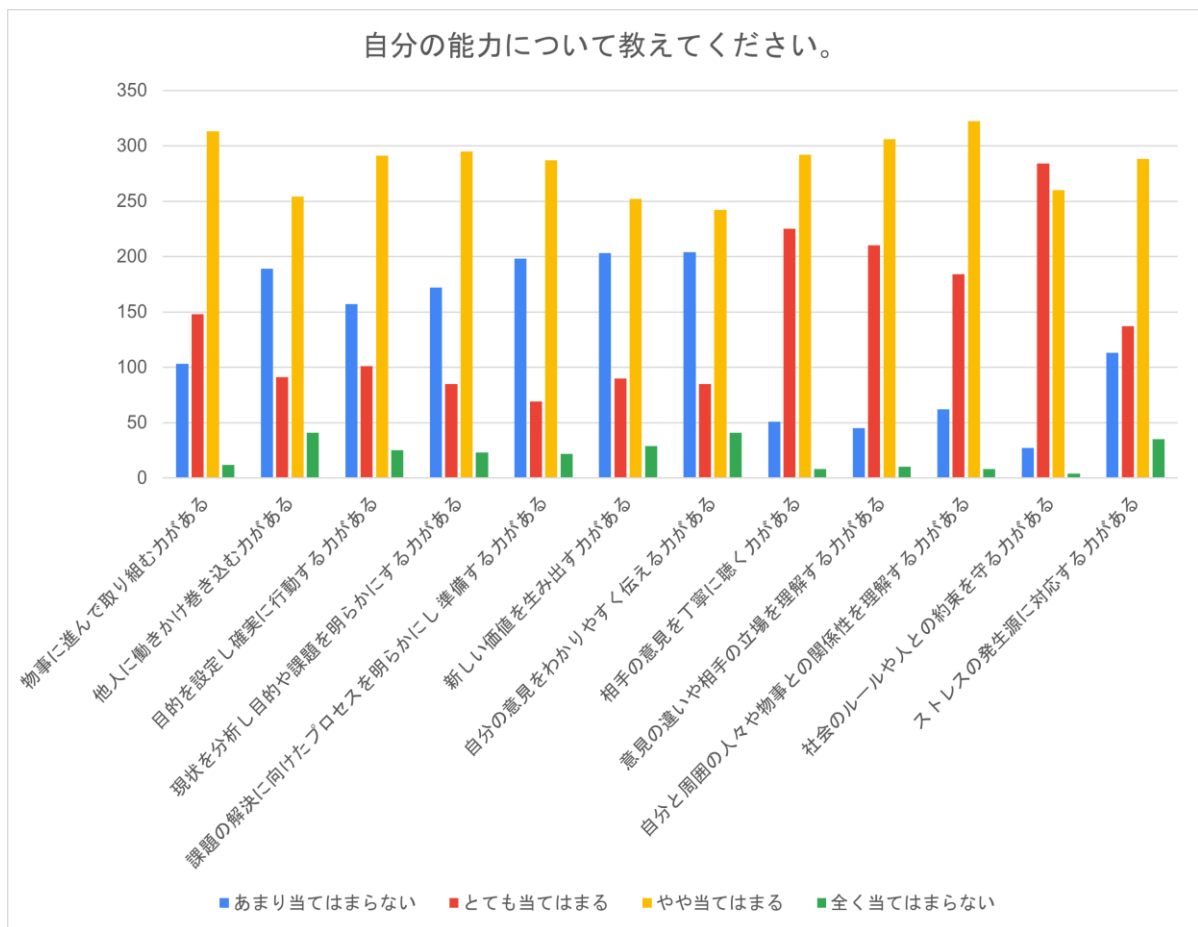
本調査の回答でどの項目も、「やや当てはまる」についての票数が一番多い。また大半の項目で「とても当てはまる」が二番目に票数が多い。自身を過小評価する学生が少ないことが分かる。

【問 21】 キャリアプラン(社会人基礎力)

	物事に進んで取り組む力がある	他人に働きかけ巻き込む力がある	目的を設定し確実に行動する力がある	現状を分析し目的や課題を明らかにする力がある
あまり当てはまらない	103	189	157	172
とても当てはまる	148	91	101	85
やや当てはまる	313	254	291	295
全く当てはまらない	12	41	25	23

	課題の解決に向けたプロセスを明らかにし準備する力がある	新しい価値を生み出す力がある	自分の意見をわかりやすく伝える力がある	相手の意見を丁寧に聴く力がある
あまり当てはまらない	198	203	204	51
とても当てはまる	69	90	85	225
やや当てはまる	287	252	242	292
全く当てはまらない	22	29	41	8

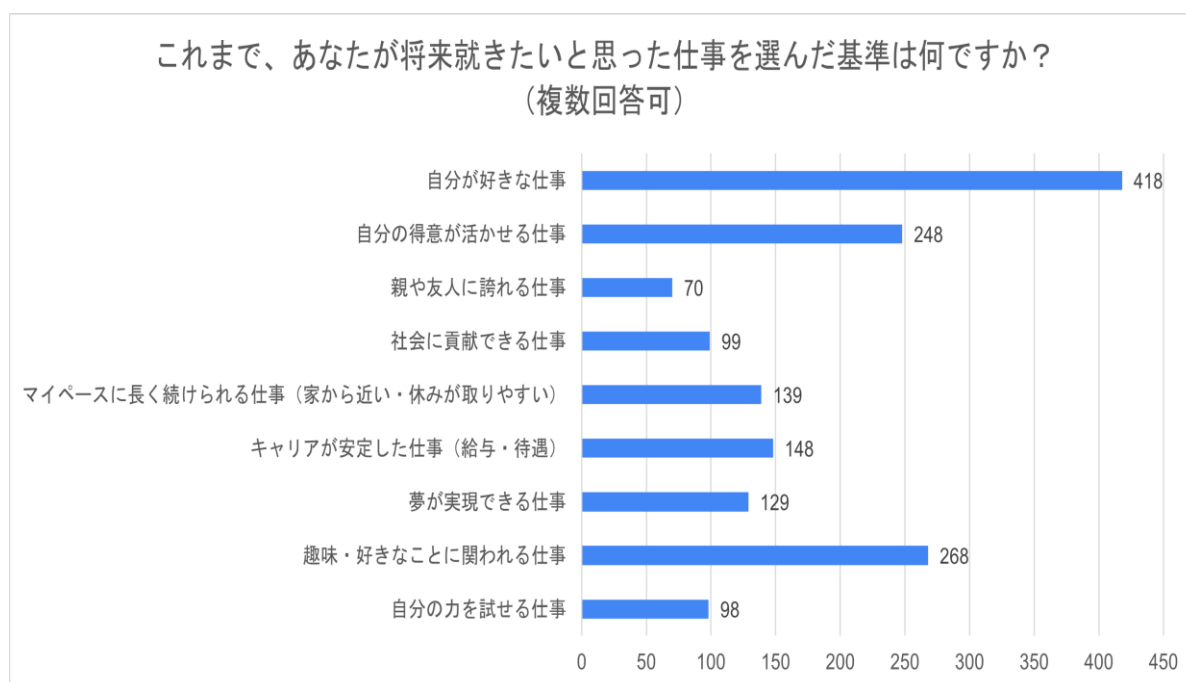
	意見の違いや相手の立場を理解する力がある	自分と周囲の人々や物事との関係性を理解する力がある	社会のルールや人との約束を守る力がある	ストレスの発生源に対応する力がある
あまり当てはまらない	45	62	27	113
とても当てはまる	210	184	284	137
やや当てはまる	306	322	260	288
全く当てはまらない	10	8	4	35



本調査の回答で、ほとんどの設問について「やや当てはまる」の回答が一番多くなっている。また前項とは逆に「あまり当てはまらない」の回答が多かった設問も半数ほどあり、自身の能力については自己評価がやや低い傾向が見られる。

【問 22】 キャリアプラン(職業選択基準 1)

自分の力を試せる仕事	98
趣味・好きなことに関われる仕事	268
夢が実現できる仕事	129
キャリアが安定した仕事(給与・待遇)	148
マイペースに長く続けられる仕事(家から近い・休みが取りやすい)	139
社会に貢献できる仕事	99
親や友人に誇れる仕事	70
自分の得意が活かせる仕事	248
自分が好きな仕事	418



本調査の回答で多いものから順に、自分が好きな仕事 418 件、趣味・好きなことに関われる仕事 268 件、自分の得意が活かせる仕事 248 件であった。自身の好きや得意が感じられる仕事に興味を惹かれる学生が多いことが分かる。

【問 23】 キャリアプラン(職業選択基準 2)

●上記でチェックした仕事選びの基準についてなぜそう思うのか簡単に教えてください。

※自由記述について、生成 AI(chatGPT4.0)にて、回答をまとめて整理をした(分類カテゴリと概算件数(目安数)を記載し多い順番で並べた。

※代表的な回答を「 」にて記載した。

1. 好きなこと・得意なことを活かして長く続けたい・楽しく働きたい:約 300 件

- ・全体の中で最も多く、この趣旨で繰り返し言及している回答が多数存在
「別に夢がないから好きなことを仕事にしたら楽しく人生を送れると思ったから」
「好きなことならしゅうちゅうできるから」
「自分の好きなことで仕事することによって、楽しく作業が出来ると思ったから。」
「好きなことを仕事にできた方が、頑張れると思ったから。」
「好きなことをして生きていけるということが僕にとって生きがいだと思う」

2. 安定・収入重視:約 100 件

- ・安定した収入、給料、お金に関する記述が見られる回答
「お金を稼ぐためだから」
「お金は仕事を探すうえで一番大切なことだから」
「安定した職業につくため」
「給料が大事だから。楽しく働きたい。」
「安定した給料がいいから。」

3. 社会貢献・人の役に立ちたい:約 50 件

- ・「人を助けたい」「社会に貢献」などの記述が見られる回答
「社会貢献は好きだから」
「人を支える仕事がしたいから」
「誰かの役に立ったり、人を助けることが好きだから」
「社会に貢献しながら、自分の夢であることができるから」
「人の役に立ちたいから」

4. 昔からの夢・憧れ・目標:約 30 件

- ・「小さい頃からの夢」「昔から憧れていた」などの記述が見られる回答
「小さい頃からの夢だから。」
「昔からしている習い事を活かしたいから」
「実際に経験して夢になったから」
「昔からその職業に関心があったわけではないが…」
「子供の頃からやりたい仕事だったから。」

5. 家族・親の影響：・約 10 件

- ・「親がその仕事をしている」「家族が応援」などの記述が見られる回答
- 「親が仕事をしていたり関心を持ったから。」
- 「家族が応援してくれるから」
- 「親の仕事とかだとその仕事の良いところ悪いところを聞くことができるから」
- 「父、母、姉が働いて楽しそうだから。」
- 「親が自衛隊だったというのもあるので自衛隊に憧れ」

6. その他(直感・なんとなく等)：・約 10 件

- ・「なんとなく」「特になし」「勘」など明確な基準を示さない回答
- 「単純な人間だから」
- 「勘」
- 「特になし」
- 「わからない」
- 「なんとなく」

【問 24】 専修学校について(イメージ)

●あなたにとっての専門学校イメージを教えてください。

※自由記述について、生成 AI(chat-GPT4.0)にて、回答をまとめて整理をした(分類カテゴリと概算件数(目安数)を記載し多い順番で並べた。

※代表的な回答を「 」にて記載した。

1 位:専門的なことを学べる・特化した分野を深く学ぶ:約 100 件

- ・「特定の分野を深く学べる場所」
- ・「専門的なことを深くまで学んでいくイメージ」
- ・「専門的な知識を学べる場所」
- ・「その専門のことだけを学ぶ」
- ・「一つのことを徹底的に学び、卒業後すぐに就職できる力を身に着ける場」

2 位:就職に有利・資格取得できる:約 50 件

- ・「就職で強い」
- ・「就職に直結した学びや支援を行ってくれる学校」
- ・「資格を取るための学習ができる。」
- ・「専門の技術を学ぶ場所で資格など取りやすそう。」
- ・「就職に必要な学校だと思います」

3 位:好きなこと・興味あることに集中・楽しそう:約 40 件

- ・「興味があることに今まで以上に取り組める」
- ・「好きなことをする学校」
- ・「自分が学びたいことを専攻する場」
- ・「自分の好きなことを大学よりも短期間で学べて早く就職することができる」ところ」
- ・「好きなことを極める」

4 位:お金がかかる・学費が高い:約 30 件

- ・「お金がたくさんかかる」
- ・「学費が高い」
- ・「お金が高そう」
- ・「お金がかかる」
- ・「お金がかかるところ」

5 位:短期間・短期集中で学べる:約 25 件

- ・「大学に比べ、短期間でより専門的な技術を学べる場所」
- ・「短期間で専門的なことを深く学べるところ。」
- ・「期間が短い。」
- ・「短い期間かつ一つ一つの技術がとても丁寧」
- ・「学ぶ期間が短いけど、濃く学べる。」

6 位:難しそう・大変そう・忙しそう:約 20 件

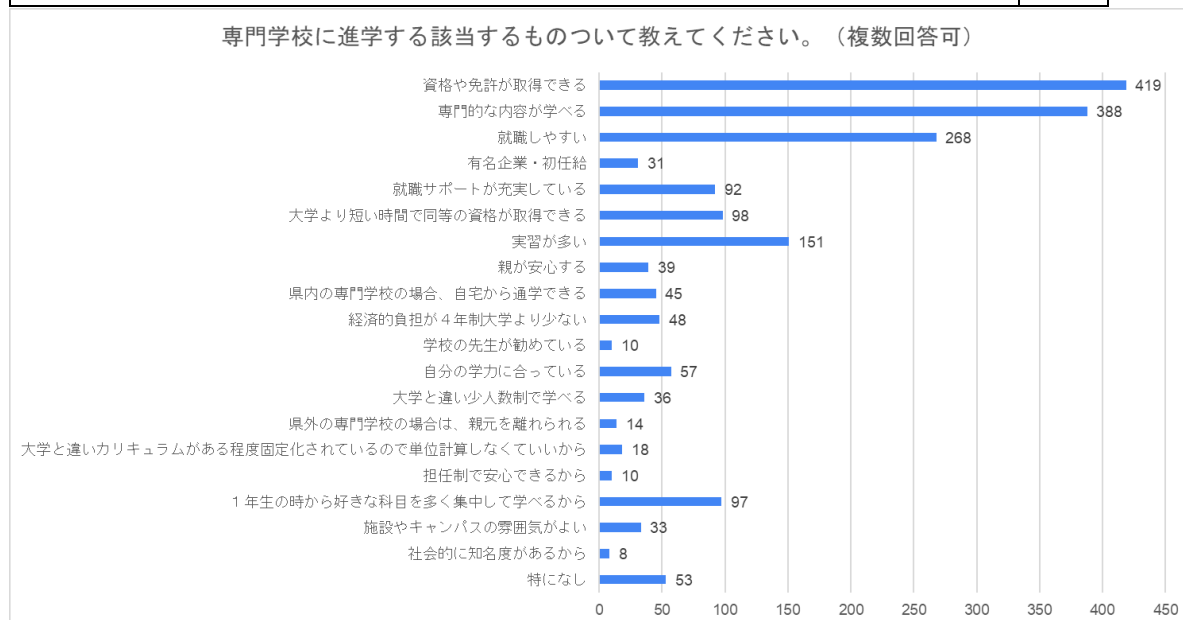
- ・「難しそう」
- ・「大変」
- ・「辛く厳しい」
- ・「忙しい」
- ・「大変そう」

7 位:わからない・特になし:約 10 件

- ・「わからない」
- ・「わからない。」
- ・「わからない」
- ・「特になし」
- ・「よくわからない」

【問 25】 専修学校について(価値 1)

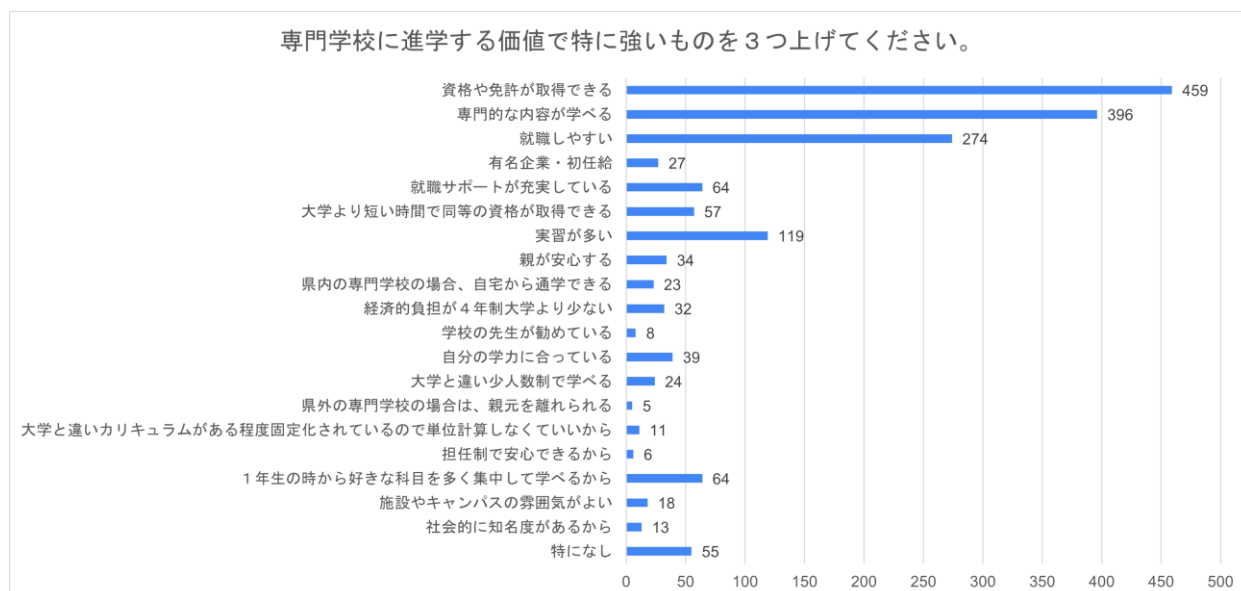
資格や免許が取得できる	419
専門的な内容が学べる	388
就職しやすい	268
有名企業・初任給	31
就職サポートが充実している	92
大学より短い時間で同等の資格が取得できる	98
実習が多い	151
親が安心する	39
県内の専門学校の場合、自宅から通学できる	45
経済的負担が4年制大学より少ない	48
学校の先生が勧めている	10
自分の学力に合っている	57
大学と違い少人数制で学べる	36
県外の専門学校の場合は、親元を離れられる	14
大学と違いカリキュラムがある程度固定化されているので単位計算しなくていいから	18
担任制で安心できるから	10
1年生の時から好きな科目を多く集中して学べるから	97
施設やキャンパスの雰囲気がよい	33
社会的に知名度があるから	8
特になし	53



本調査の回答で多いものから順に、「資格や免許が取得できる」419件、「専門的な内容が学べる」388件、「就職しやすい」268件であった。他の項目と票数が大きく開いていることから、専門学校に期待することはどの学生もこの3つの回答をする傾向が強く見られた。

【問 26】 専修学校について(価値 2)

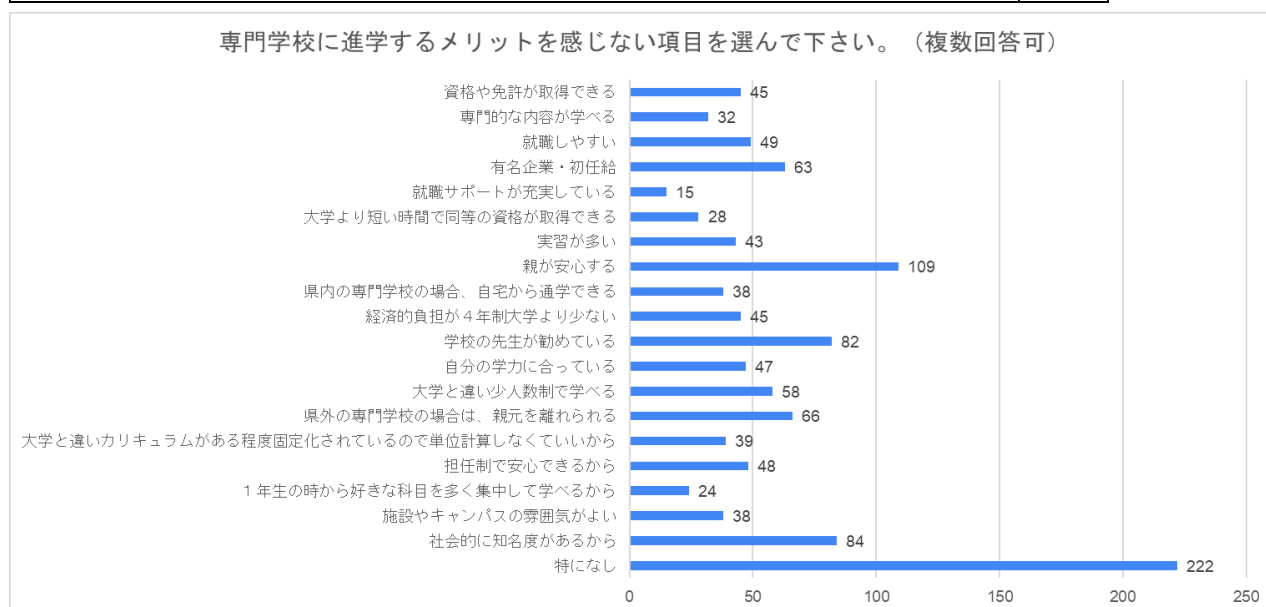
資格や免許が取得できる	459
専門的な内容が学べる	396
就職しやすい	274
有名企業・初任給	27
就職サポートが充実している	64
大学より短い時間で同等の資格が取得できる	57
実習が多い	119
親が安心する	34
県内の専門学校の場合、自宅から通学できる	23
経済的負担が4年制大学より少ない	32
学校の先生が勧めている	8
自分の学力に合っている	39
大学と違い少人数制で学べる	24
県外の専門学校の場合は、親元を離れられる	5
大学と違いカリキュラムがある程度固定化されているので単位計算しなくていいから	11
担任制で安心できるから	6
1年生の時から好きな科目を多く集中して学べるから	64
施設やキャンパスの雰囲気がよい	18
社会的に知名度があるから	13
特になし	55



本調査の回答で多いものから順に、資格や免許が取得できる 459 件、専門的な内容が学べる 396 件、就職しやすい 274 件であった。前項と同じ結果となり、専門学校に対するイメージと価値を同一視していることがわかった。

【問 27】 専修学校について(課題点 1)

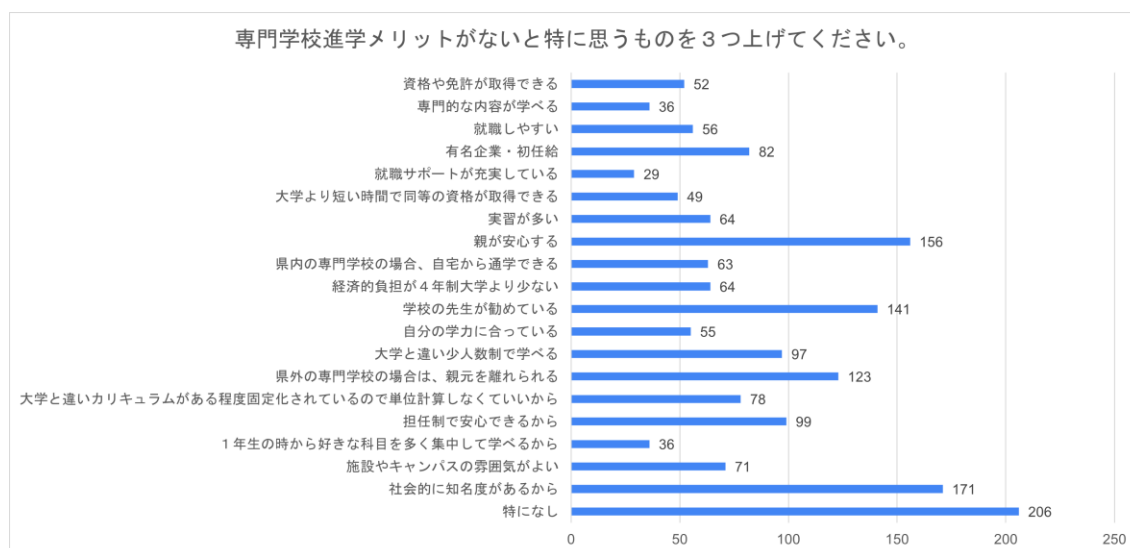
資格や免許が取得できる	45
専門的な内容が学べる	32
就職しやすい	49
有名企業・初任給	63
就職サポートが充実している	15
大学より短い時間で同等の資格が取得できる	28
実習が多い	43
親が安心する	109
県内の専門学校の場合、自宅から通学できる	38
経済的負担が4年制大学より少ない	45
学校の先生が勧めている	82
自分の学力に合っている	47
大学と違い少人数制で学べる	58
県外の専門学校の場合は、親元を離れられる	66
大学と違いカリキュラムがある程度固定化されているので単位計算しなくていいから	39
担任制で安心できるから	48
1年生の時から好きな科目を多く集中して学べるから	24
施設やキャンパスの雰囲気がよい	38
社会的に知名度があるから	84
特になし	222



本調査の回答で多いものから順に、「特になし」222件、「親が安心する」109件、「社会的に知名度があるから」84件であった。進路希望が大学と専門学校でほぼ同数であったことから、多くの学生は専門学校進学に対しても、逆にメリットを感じている高校生が多いことが分かる。

【問 28】 専修学校について(課題点 2)

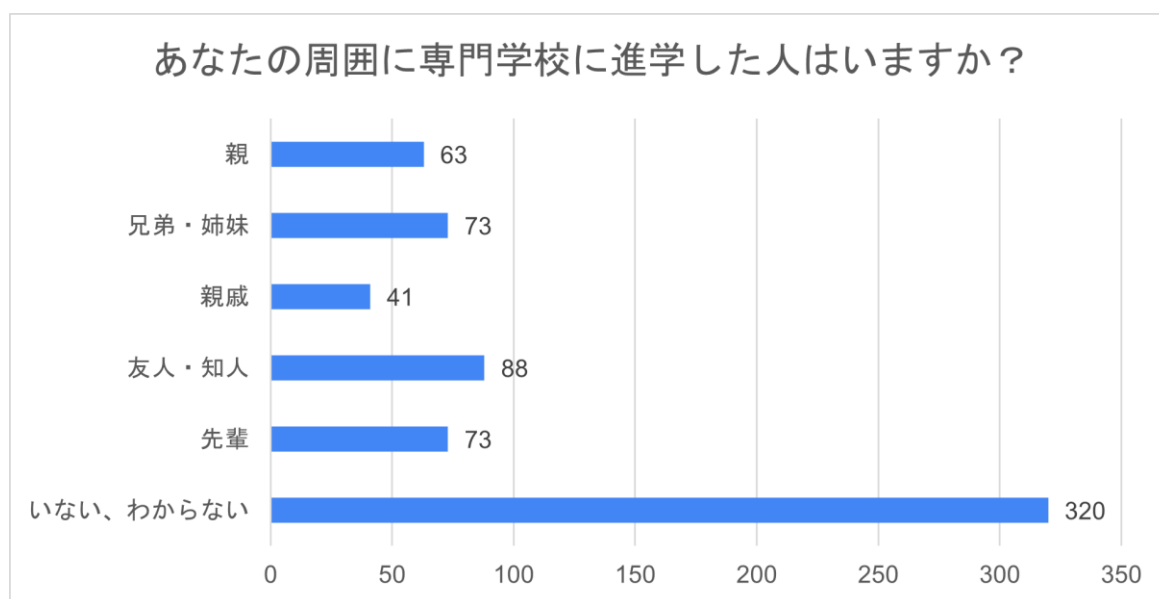
資格や免許が取得できる	52
専門的な内容が学べる	36
就職しやすい	56
有名企業・初任給	82
就職サポートが充実している	29
大学より短い時間で同等の資格が取得できる	49
実習が多い	64
親が安心する	156
県内の専門学校の場合、自宅から通学できる	63
経済的負担が4年制大学より少ない	64
学校の先生が勧めている	141
自分の学力に合っている	55
大学と違い少人数制で学べる	97
県外の専門学校の場合は、親元を離れられる	123
大学と違いカリキュラムがある程度固定化されているので単位計算しなくていいから	78
担任制で安心できるから	99
1年生の時から好きな科目を多く集中して学べるから	36
施設やキャンパスの雰囲気がい	71
社会的に知名度があるから	171
特になし	206



本調査の回答で多いものから順に、「特になし」206件、「社会的に知名度があるから」171件、「親が安心するから」156件であった。「メリットがない」と思わない学生が一番多いことが分かると同時に、他項目についても親や先生等他者に関する項目についてメリットのなさを感じる学生が多い。

【問 29】 専修学校について(進学環境 1)

親	63
兄弟・姉妹	73
親戚	41
友人・知人	88
先輩	73
いない、わからない	320



本調査の回答で多いものから順に、「いない、わからない」320件、「友人・知人」88件、「兄弟・姉妹・先輩」73件であった。高校卒業者のうち、専門学校進学全国平均は15%を超えているが、本調査の回答では「いない、わからない」とする回答が一番多かった。認知度や周知度が課題であると考えられる。

【問 30】 専修学校について(進学環境 2)

●専門学校がもっとこうなったら進学しやすいと思うことを書いて下さい。

※自由記述回答を前回同様に類似の内容でまとめ、多い順に並べた。

1 位:学費・金銭面の負担軽減を望む:約 100 件

- 「学費が安くなったら進学しやすい」
- 「入学金や授業料を安くしてほしい」
- 「金銭的な負担が少なければ行きやすい」
- 「奨学金や補助金などサポートを増やしてほしい」
- 「お金がかからないようにしたい」

2 位:特になし・わからない:約 80 件

- 「特になし」
- 「わからない」
- 「分らない」
- 「ない」
- 「考えが見つかりませんでした」
-

3 位:宣伝・情報発信・知名度向上を求める:約 30 件

- 「もっと宣伝する」
- 「CM や SNS など呼びかける」
- 「パンフレットで大学との違いを詳しく説明」
- 「専門学校の雰囲気をもっと知らせる」
- 「PR を強化して選びやすくする」
-

4 位:通いやすさ・立地改善:約 20 件

- 「駅が近いところであれば通いやすい」
- 「家の周りに建てる」
- 「都会だけでなく田舎にも増やす」
- 「近くにあると進学しやすい」
- 「アクセスしやすい場所」

5 位:カリキュラム・学習内容の明確化・多様化:約 20 件

- 「大学とどう違うのかわかるようにしてほしい」
- 「具体的な学習内容が知れたらいい」
- 「幅広い分野が学べると進学しやすい」
- 「実習を増やす」
- 「専門知識以外の社会的な知識も学べるように」

6位:就職・将来性の向上:約15件

- 「給料が高くなる・大卒と差を無くす」
- 「就職しやすくする・就職先を明確に」
- 「就職率100%を目指すなど将来性を示す」

7位:その他(学校名のわかりやすさ、サークル、雰囲気、人間関係など):約15件

- 「学校名をわかりやすく」
- 「サークルを増やす」
- 「人間関係を築きやすくする」
- 「雰囲気を良くする広告」
- 「待遇を良くする」

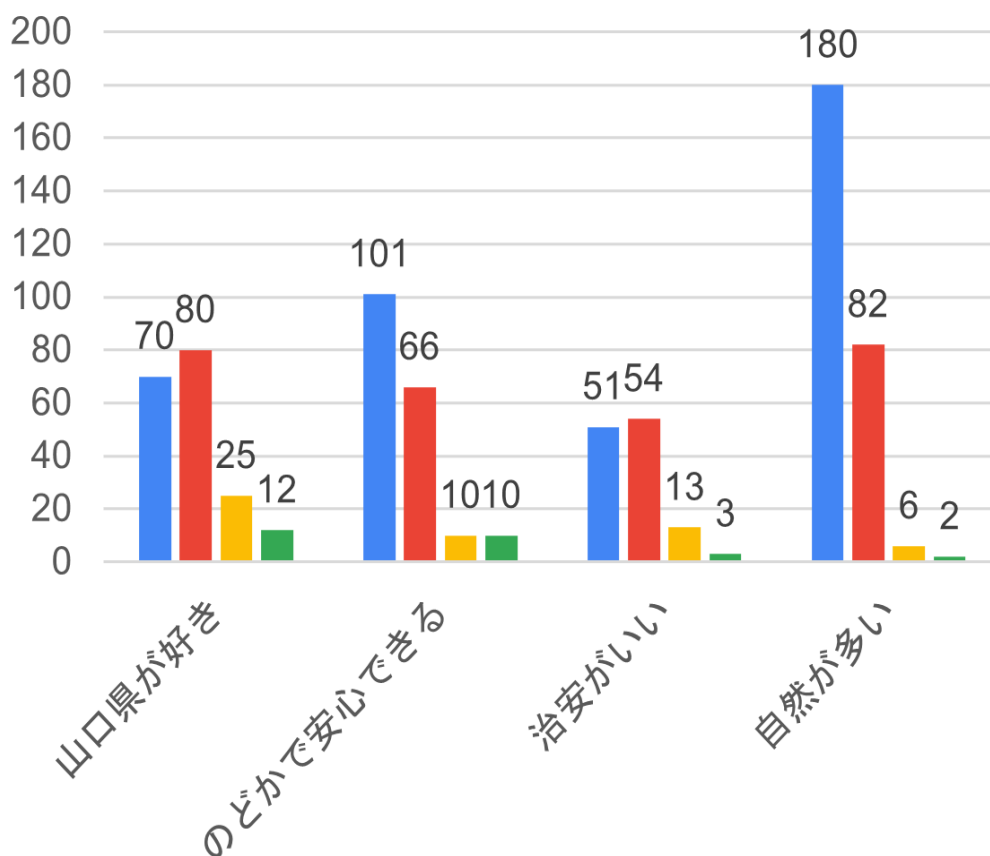
以上のように「学費・金銭面への要望」が最も多く、「特になし・わからない」が次点となり、その後に「宣伝・情報発信」「通いやすさ」「カリキュラムの明確化・多様化」「就職・将来性の改善」などが続く傾向が見られます。

【問 31】 山口県について(イメージ 1)

	山口県が好き	のどかで安心できる	治安がいい	自然が多い
そう思う	70	101	51	180
ややそう思う	80	66	54	82
ややそう思わない	25	10	13	6
思わない	12	10	3	2

山口県についてのイメージを4つの中で教えて下さい。

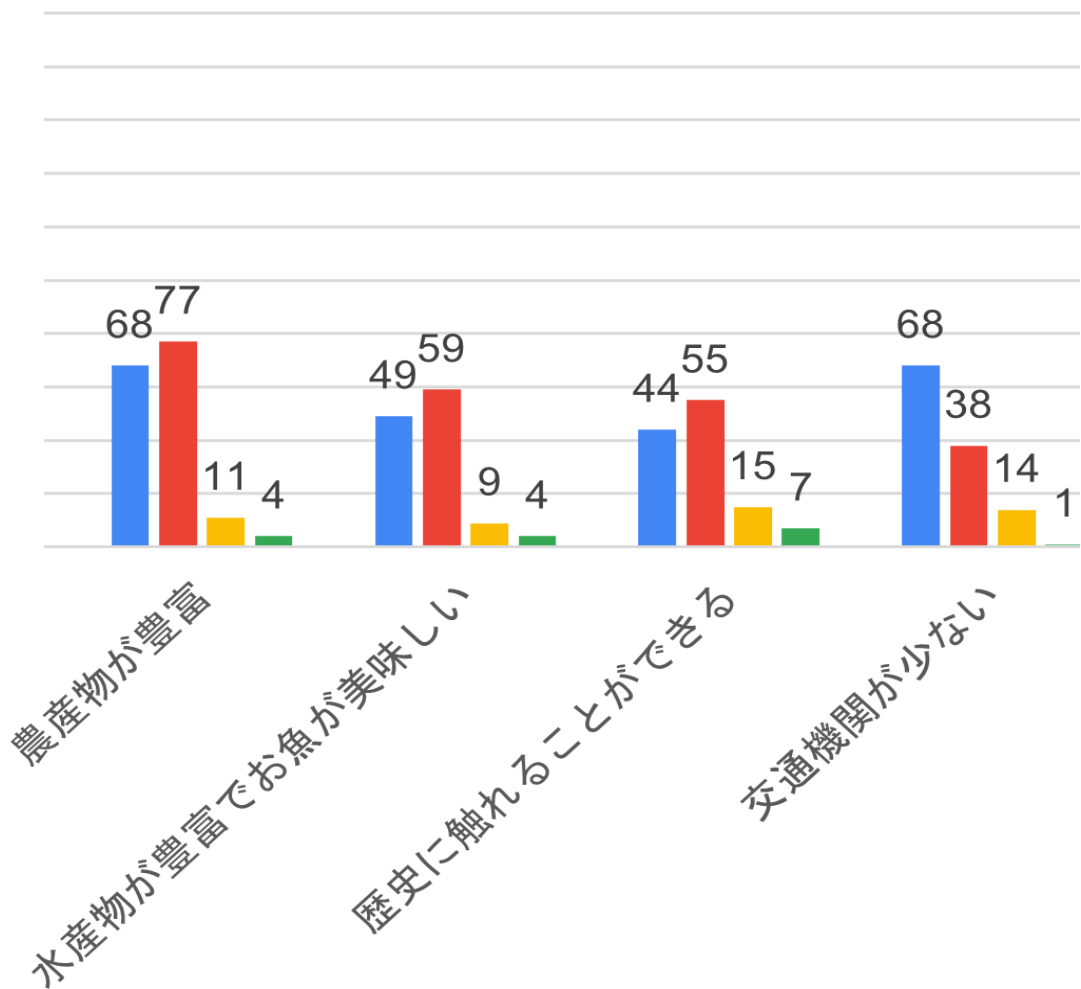
■そう思う ■ややそう思う ■ややそう思わない ■思わない



	農産物が豊富	水産物が豊富で お魚が美味しい	歴史に触れること ができる	交通機関が少な い
そう思う	68	49	44	68
ややそう思う	77	59	55	38
ややそう思わない	11	9	15	14
思わない	4	4	7	1

山口県についてのイメージを4つの中で教えて下さい。

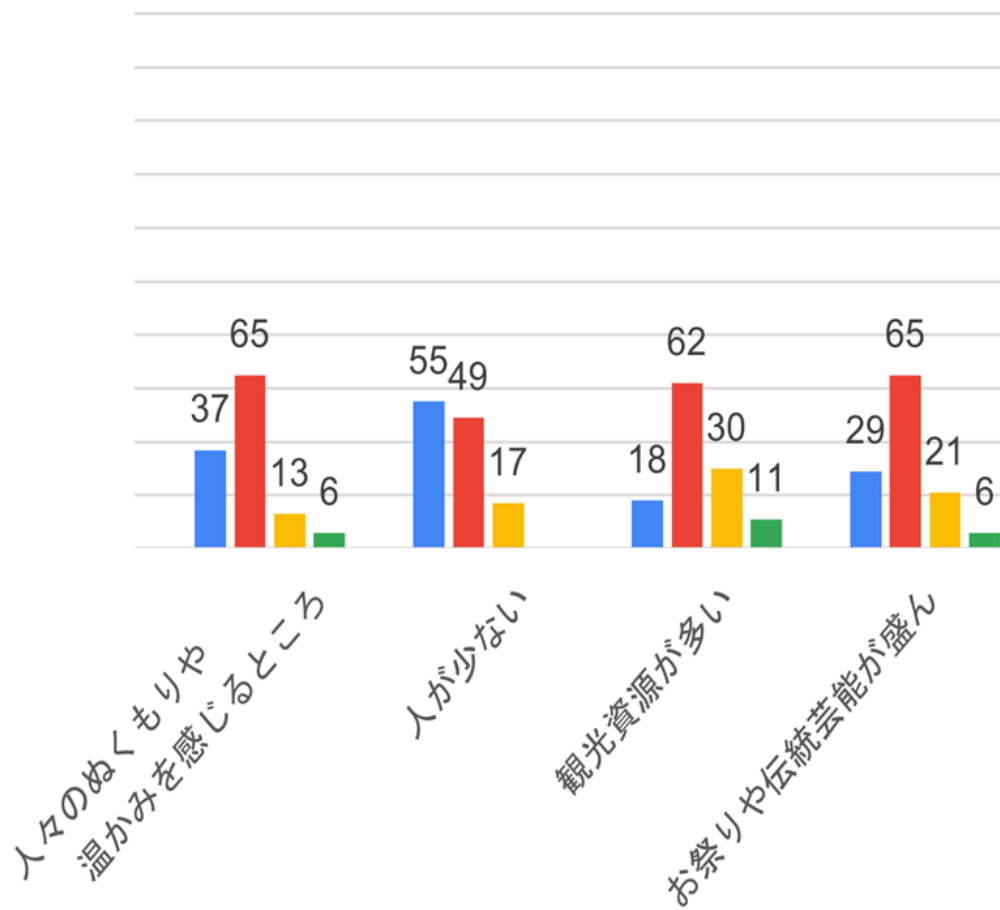
■ そう思う ■ ややそう思う ■ ややそう思わない ■ 思わない



	人々のぬくもりや 温かみを感じると ころ	人が少ない	観光資源が多い	お祭りや伝統芸能 が盛ん
そう思う	37	55	18	29
ややそう思う	65	49	62	65
ややそう思わない	13	17	30	21
思わない	6	0	11	6

山口県についてのイメージを4つの中で教えて下さい。

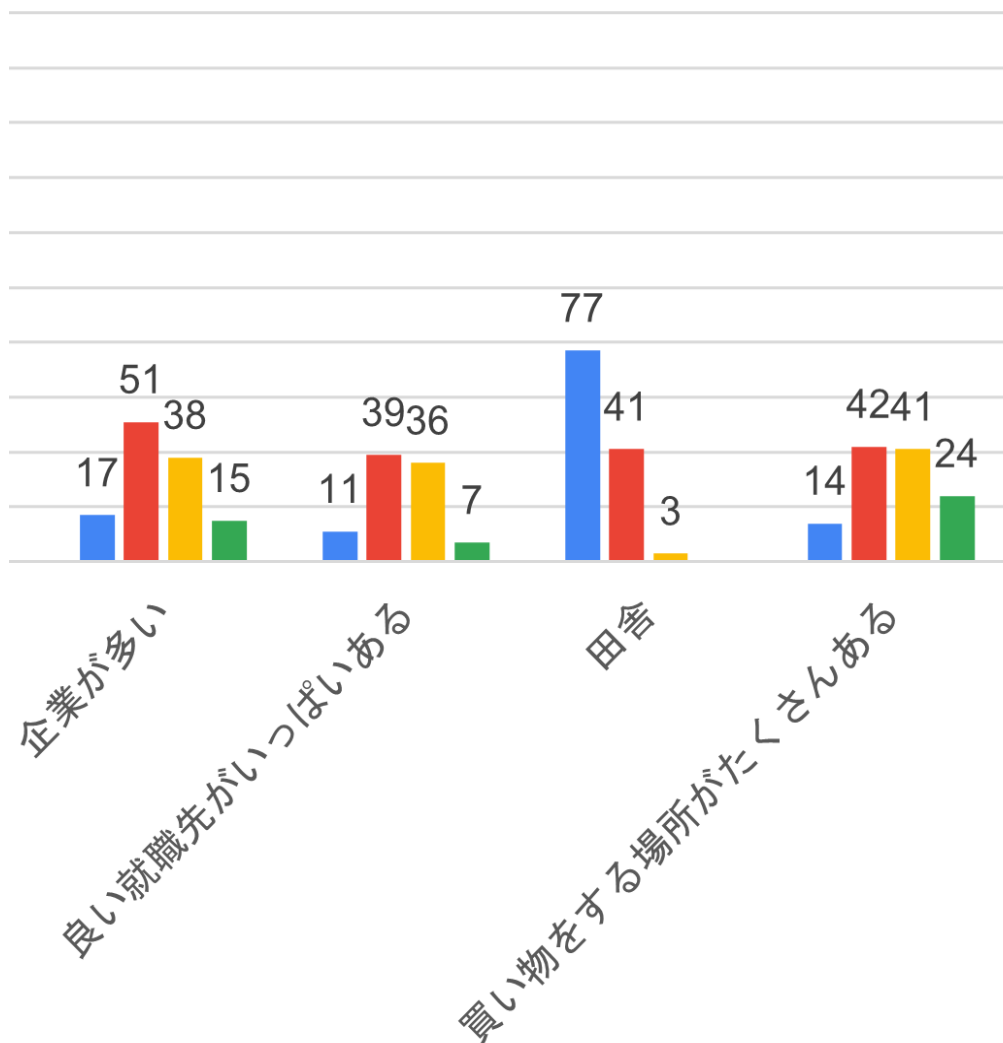
■そう思う ■ややそう思う ■ややそう思わない ■思わない



	企業が多い	良い就職先がいっぱいある	田舎	買い物をする場所がたくさんある
そう思う	17	11	77	14
ややそう思う	51	39	41	42
ややそう思わない	38	36	3	41
思わない	15	7	0	24

山口県についてのイメージを4つの中で教えて下さい。

■そう思う ■ややそう思う ■ややそう思わない ■思わない



本調査の回答で、自然の豊かさやのどかさを感じる学生が多いことが分かった。同時に他設問と比べて企業や商業施設に関する設問に「ややそう思わない」との回答が集中している。

【問 32】 山口県について(イメージ 2)

●その他、山口県についてのイメージを教えてください。

1 位:田舎・自然豊か:約 110 件

・「田舎」「自然が多い」「山が多い」「空気が美味しい」などを含む

2 位:何も無い・遊べる場所が少ない:約 60 件

・「何もない」「遊ぶ場所が少ない」「商業施設不足」など

3 位:治安が良く人が優しい:約 30 件

・「治安が良い」「人が優しい」「人柄が良い」など

4 位:落ち着く・のどか・平和:約 40 件

・「のどか」「落ち着く」「平和」「住みやすい」など

5 位:交通・買い物などの不便さ:約 30 件

・「交通機関が少ない」「電車が少ない」「不便」など)

6 位:歴史・政治的背景:約 15 件

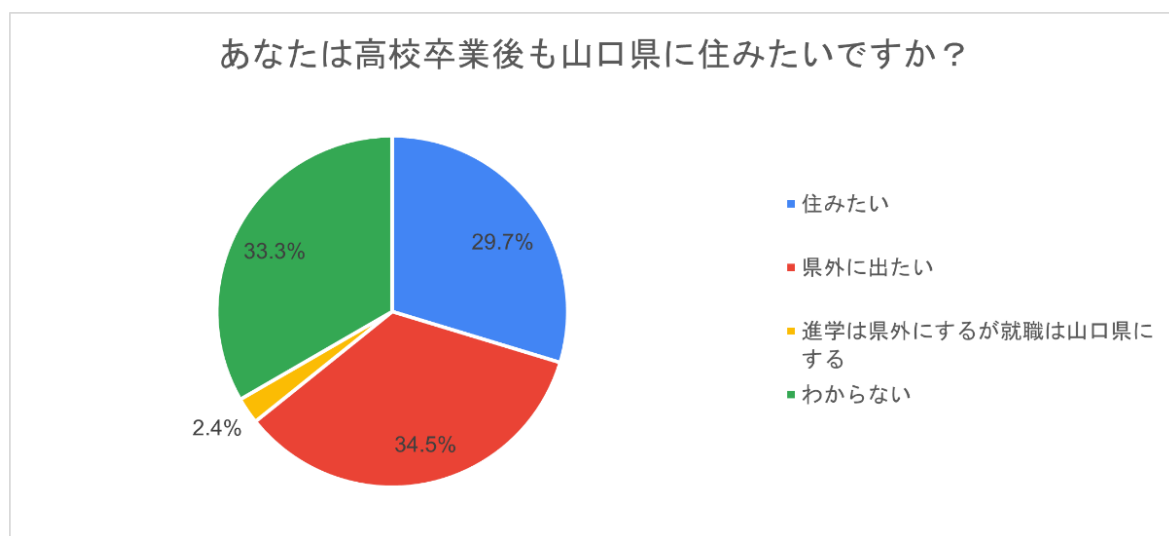
・「総理大臣が多い」「歴史が多い」「吉田松蔭」など)

7 位:特になし・わからない:約 10 件

・「特になし」「ない」「わからない」など

【問 33】 山口県について(居住可否)

住みたい	171
県外に出たい	199
進学は県外にするが就職は山口県にする	14
わからない	192



本調査の回答で多いものから順に、県外に出たい 199 件(34.5%)、わからない 192 件(33.3%)、住みたい 171 件(29.7%)であった。上位三つの項目について大きく票が分かれることはなかった。

【問 34】 山口県について(居住可否理由)

●あなたは高校卒業後も山口県に住みたいですか？

※回答を山口県内外への志向や理由ごとに分類し、多い順に概算票数を示した。

1位:まだ決まっていない・わからない:約 120 件

- ・「まだ決めていない」「わからない」「特になし」「まだ考えていない」
- ・将来の進路(県内・県外)や就職先を決めていない、判断がついていない回答が最も多い。

2位:県外に出たい(都会・新天地志向):約 80 件

- ・「都会に行きたい」「他の県に行って色々学びたい」「広い世界を見たい」
- ・都会や県外で新たな経験や刺激、より多様な職業・学びの機会を求める声。

3位:地元に残りたい(県内志向):約 60 件

- ・「地元から出たくない」「住み慣れて安心」「親元を離れたくない」
- ・安定・安心・家族が近いなど、地元定着を希望する回答。

4位:県外に出る方が良い(より良い環境・就職先重視):約 50 件

- ・「県外の方が仕事多そう」「県外の方が便利・物が多い」
- ・より発展した場所での就職や利便性、職業選択肢を求める声。

5位:山口県は何もない・不便・物足りない:約 40 件

- ・「山口県は何もない」「飽きる」「不便」
- ・地元や山口県の問題に不満を抱き、外へ出ることを検討する回答。

6位:経済的理由(下宿・一人暮らしの費用、生活費):約 30 件

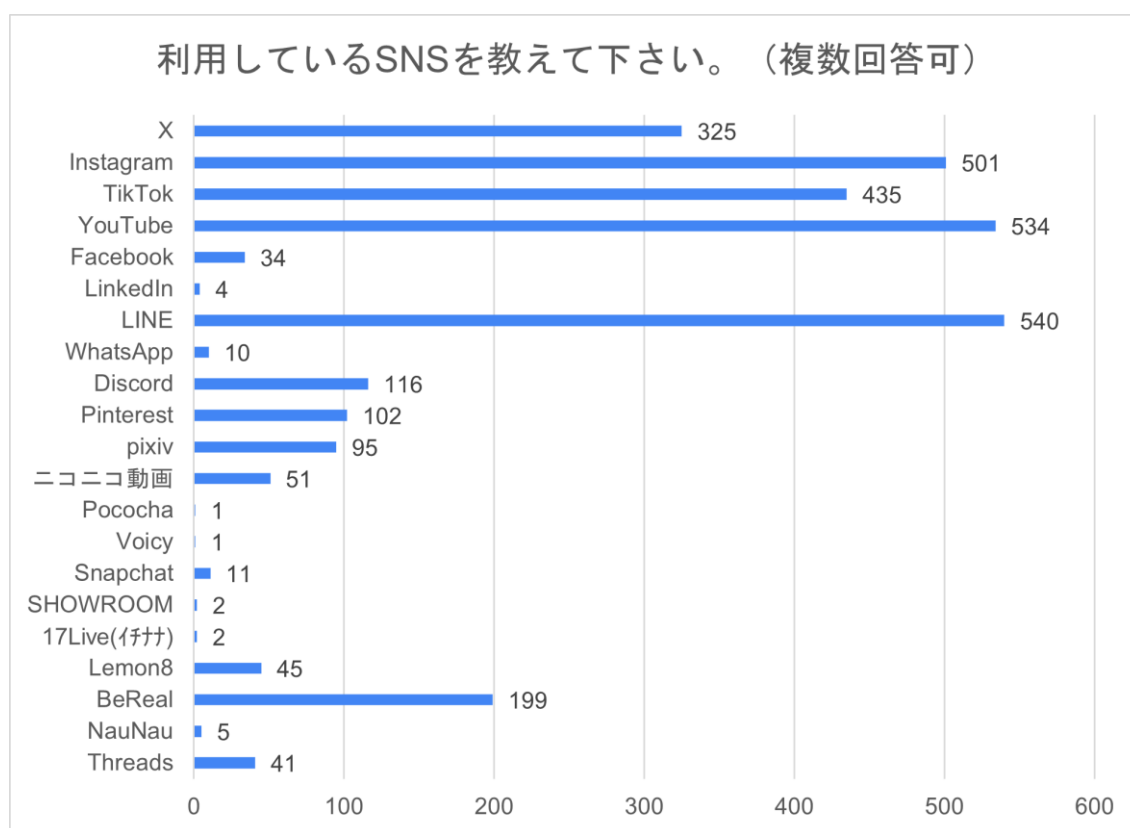
- ・「県外に出るとお金がかかる」「一人暮らしは費用が負担」
- ・経済的観点から県内外を検討する声(「家から通える範囲で」などの理由も含む)

7位:その他個別要因:約 20 件

- ・「親に恩返ししたい」「福岡や他県に知り合いがいる」「海外・別地域出身なので特に山口に執着ない」
特殊な事情や個人的な背景による回答。
- ・以上から、最も多いのは「未定・わからない」とする回答で、次いで「県外志向(都会・新天地)」「地元定着志向」「利便性・就職先重視で県外選好」「地元への不満」「経済的理由」などが続く構図です。

【問 35】 ITコミュニケーションツール(利用 SNS 1)

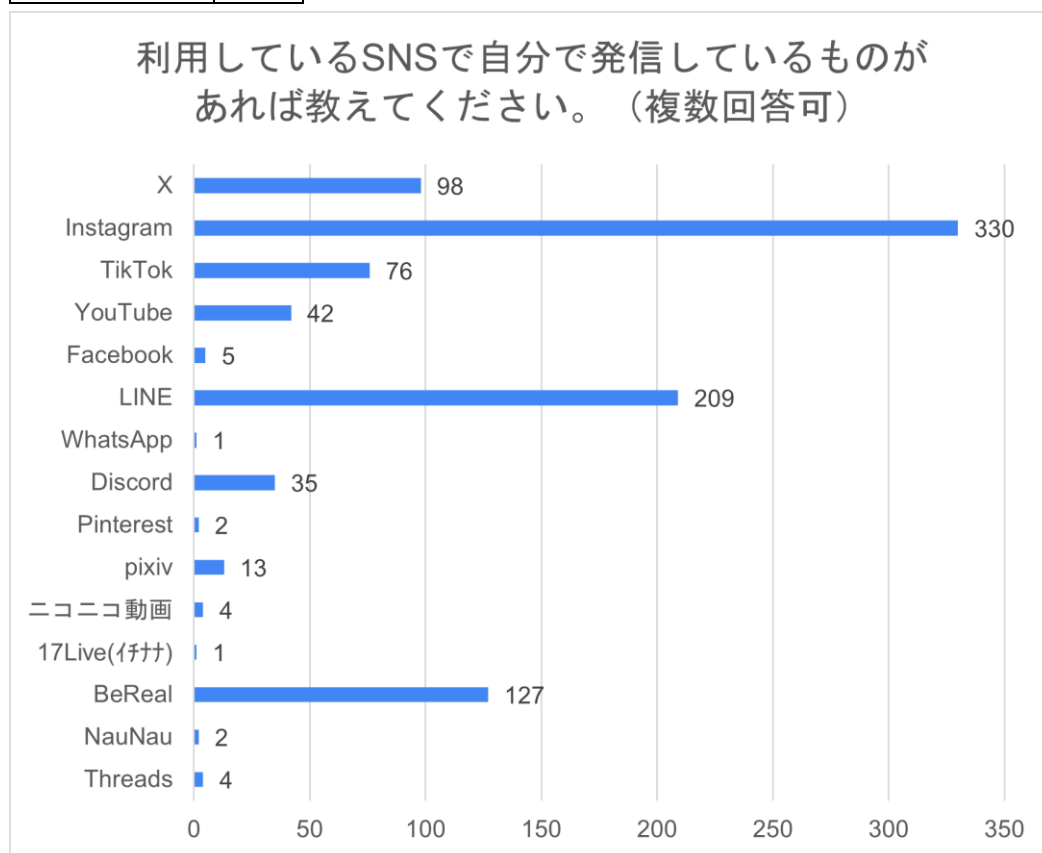
X	325	ニコニコ動画	51
Instagram	501	Pococha	1
TikTok	435	Voicy	1
YouTube	534	Snapchat	11
Facebook	34	SHOWROOM	2
LinkedIn	4	17Live(イフタ)	2
LINE	540	Lemon8	45
WhatsApp	10	BeReal	199
Discord	116	NauNau	5
Pinterest	102	Threads	41
pixiv	95		



本調査の回答で多いものから順に、LINE(540件)、YouTube(534件)、Instagram(501件)となっている。またTikTokやXも利用者が多いが、その他、SNS等の媒体も幅広く利用されていることが分かった。

【問 36】 ITコミュニケーションツール(発信 SNS)

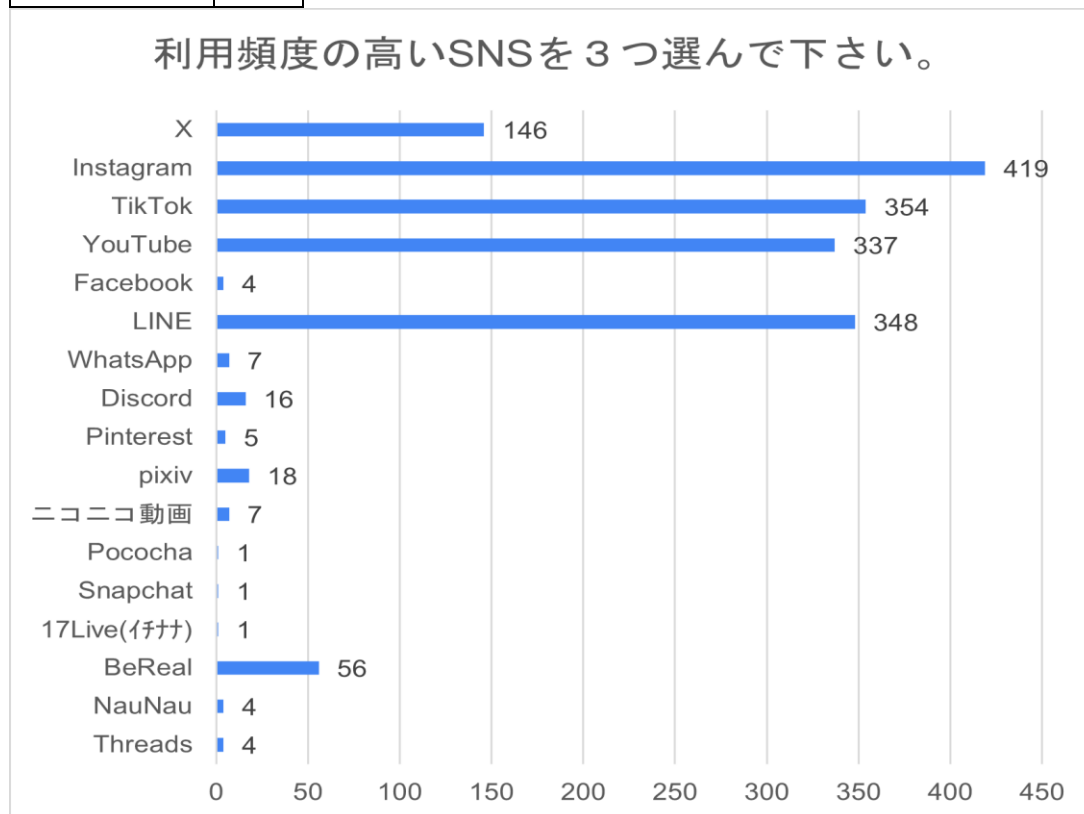
X	98
Instagram	330
TikTok	76
YouTube	42
Facebook	5
LINE	209
WhatsApp	1
Discord	35
Pinterest	2
pixiv	13
ニコニコ動画	4
17Live(ｲｯｶ)	1
BeReal	127
NauNau	2
Threads	4



本調査の回答で多いものから順に、Instagram(330件)、LINE(209件)、BeReal(127件)となっている。前設問と比べると回答数自体が大きく減っており、多くは情報受信者として利用している。

【問 37】 ITコミュニケーションツール(利用 SNS 2)

X	146
Instagram	419
TikTok	354
YouTube	337
Facebook	4
LINE	348
WhatsApp	7
Discord	16
Pinterest	5
pixiv	18
ニコニコ動画	7
Pococha	1
Snapchat	1
17Live(イカ)	1
BeReal	56
NauNau	4
Threads	4



本調査の回答で多いものから順に、Instagram419件、TikTok354件、LINE348件であった。各媒体の利用者数が多いものに回答が集中している。

【問 38】IT コミュニケーションツール(利用 SNS その他)

●その他、選択肢にない SNS で使用しているものがあれば記入ください

※以下は「ない」「なし」「特になし」「わからない」「ありません」など、新たな SNS 名を挙げていない回答を除いた上で、重複(末尾に数字があるもの)をまとめた SNS(サービス名)の一覧。

・記載のあった SNS・アプリ名(重複・類似含め1つに統合)

- BeautyPlus(1)
- BlueSky(1)
- line 漫画(1)
- Mirrativ(ミラティブ)(1)
- Netflix(2)
- spoon(1)
- Strava(ストラバ)(1)
- WePlay(1)
- Weverse(1)
- whoo(3)
- YouTube(ユーチューブ)(1)
- カラスタ(1)
- ステラミー(1)
- パラレル(1)
- ピッコマ(1)
- メルカリ(1)
- ミクチャ(1)
- ラインミュージック(Line Music)(1)
- ツイキャス(ついきゃす)(1)

以上が、その他回答で挙げた SNS・アプリ名である(回答票の原文をそのまま掲載している)。

【問 39】 今後について(企業説明会への興味)

●今後、山口県の企業説明会がありますが参加してみたいですか？また、何か特典があれば参加しますか？

※自由提示された回答を「参加意欲」と「特典有無」などの観点で大まかな傾向に分類し、概算の票数を示した(原文から読み取れる大まかな目安であり、正確なカウントではありません。また、1 回答に複数のニュアンスがある場合は主たる内容で分類しています。)

1. 主な分類カテゴリ:

1. 特典がなくても参加したい:約60件

- 「特典がなくても参加する」「参加する」「参加したい」「参加してみたい」などの明確な肯定

2. 特典があれば参加したい:約 80 件

- 「特典があれば参加したい」「特典があると行く気がする」
- (特典例としては QUO カード、図書カード、お菓子、ギフトカード、スタバカード、交通費補助などが挙げられる)

3. 興味がある企業・分野なら参加したい / 条件付き参加:約50件

- 「興味があれば参加」「自分の関心ある職種なら」「有名企業が来るなら」など、条件付きで参加意欲を示す回答

4. 参加したくない / 参加しない:約120件

- 「参加しない」「参加したくない」「思わない」「いいえ」など明確な否定

5. わからない・未定・今は考えていない:約50件

- 「わからない」「今は大丈夫」「まだ分からない」「考えていない」など

2. 特典の具体例の言及数:約 40 件

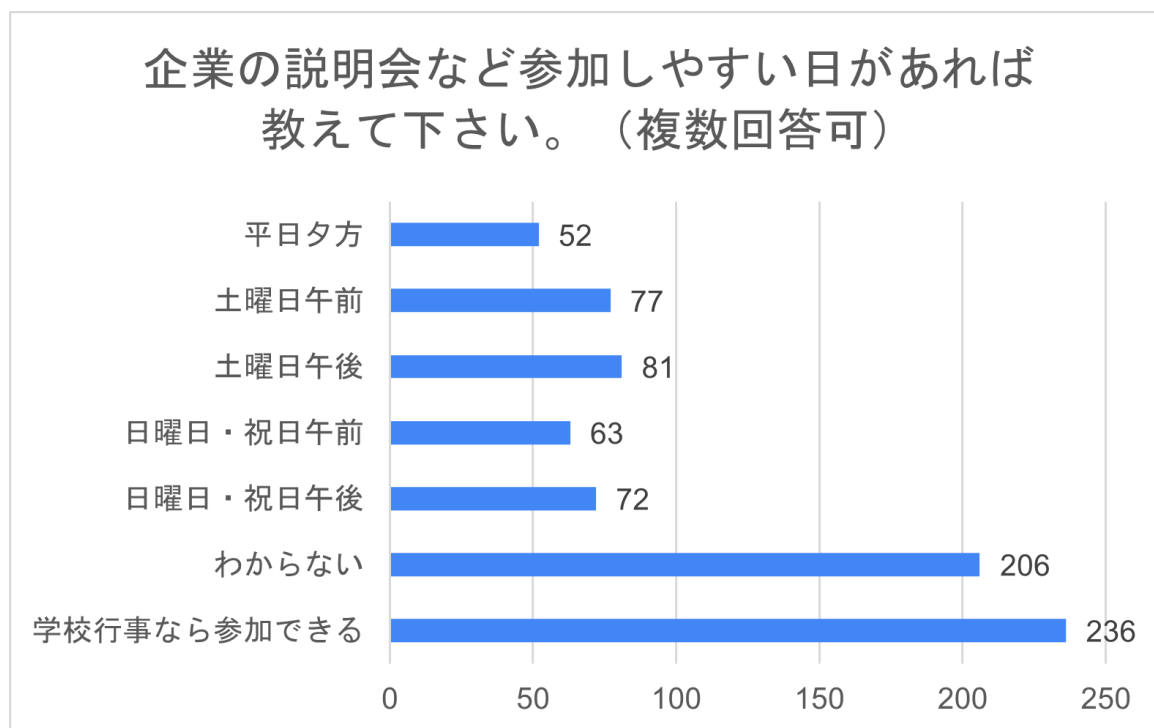
- 「QUO カード」「図書カード」「お菓子」「スタバカード」「ギフトカード」「交通費補助」「実習体験」などの具体的特典例を挙げた回答

3. 分析

・「特典があれば参加」派や「興味・条件次第で参加したい」派が比較的多い一方で、「参加しない」と答える否定的回答も多く見られます。「特典なしでも参加する」と答える純粋な肯定派はそれらと比べてやや少なめであった。また「わからない・未定」の層も一定数存在した。特典の具体例としては金券系(QUO カード、図書カード、ギフトカードなど)やお菓子、交通費補助などが多く挙げられた。

【問 40】 今後について(企業説明会の開催日アンケート)

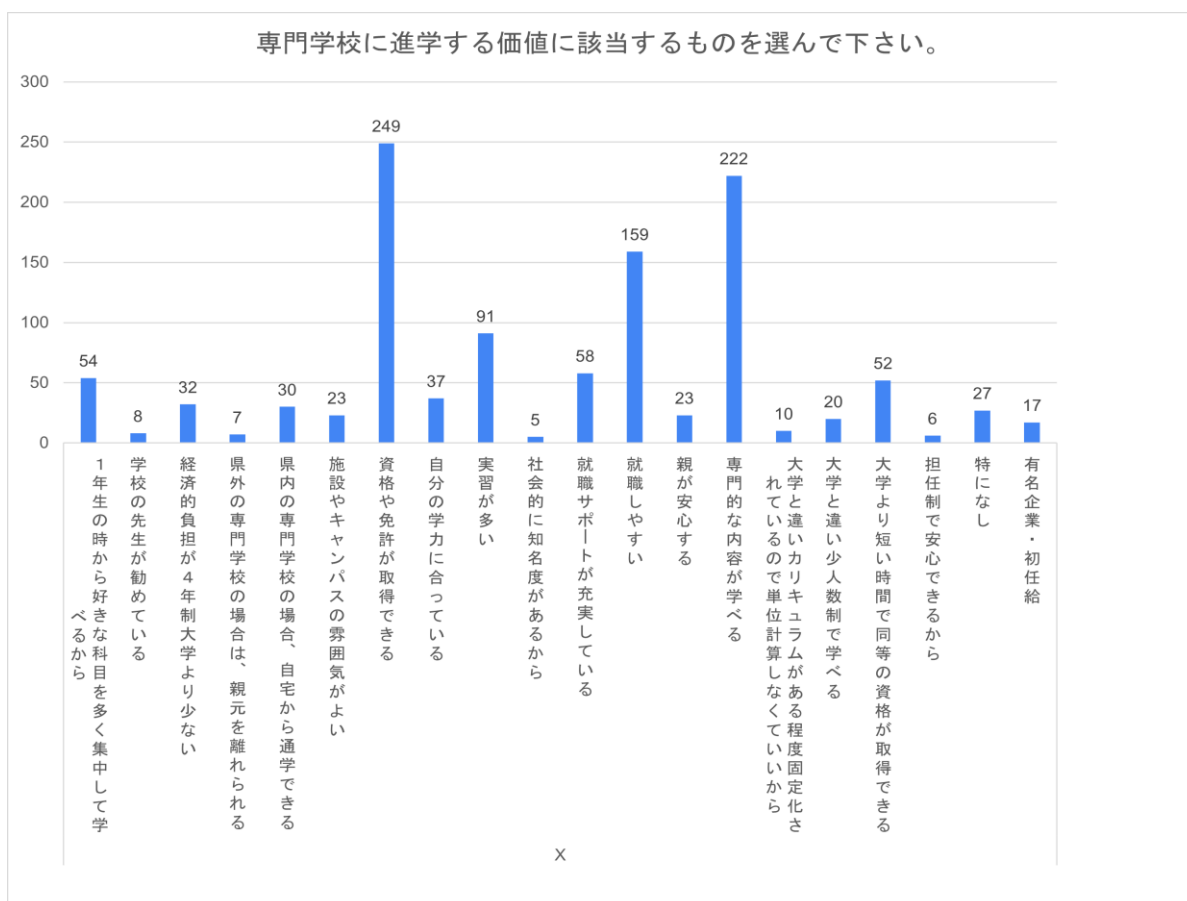
平日夕方	52
土曜日午前	77
土曜日午後	81
日曜日・祝日午前	63
日曜日・祝日午後	72
わからない	206
学校行事なら参加できる	236



本調査の回答で多いものから順に、学校行事なら参加できる 236 件、わからない 206 件、土曜日午後 81 件であった。説明会参加にあたり自ら時間を調整するより学校の行事に合わせた方が動きやすいという意向が強い。

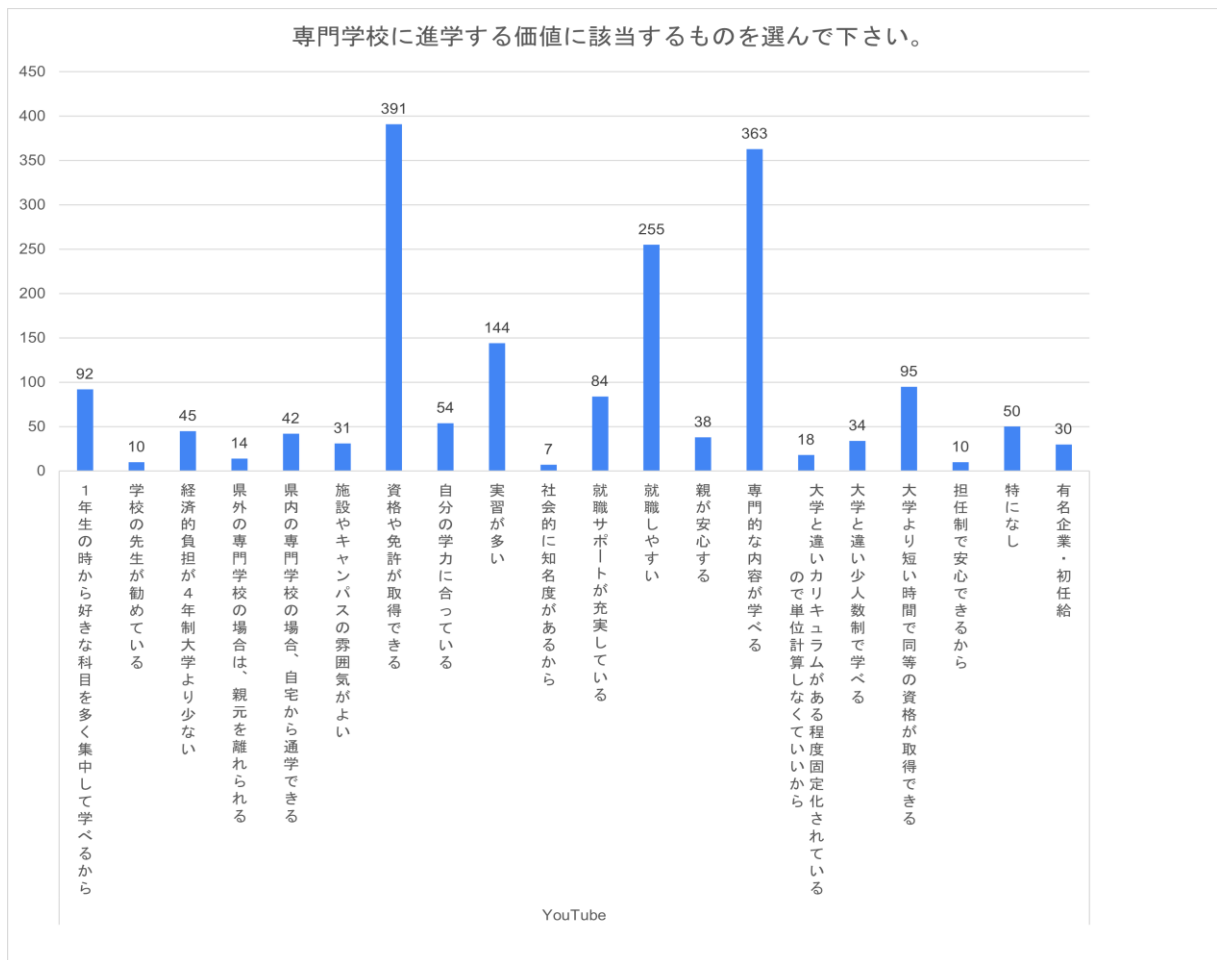
【クロス集計①】 SNS 利用状況 × 専門学校へのイメージ(進学する価値)

●使用している SNS の利用状況や種類を調べ専門学校に対するイメージが異なるかを分析した。各専門学校の広報等に役立てるデータとなる可能性を示している。



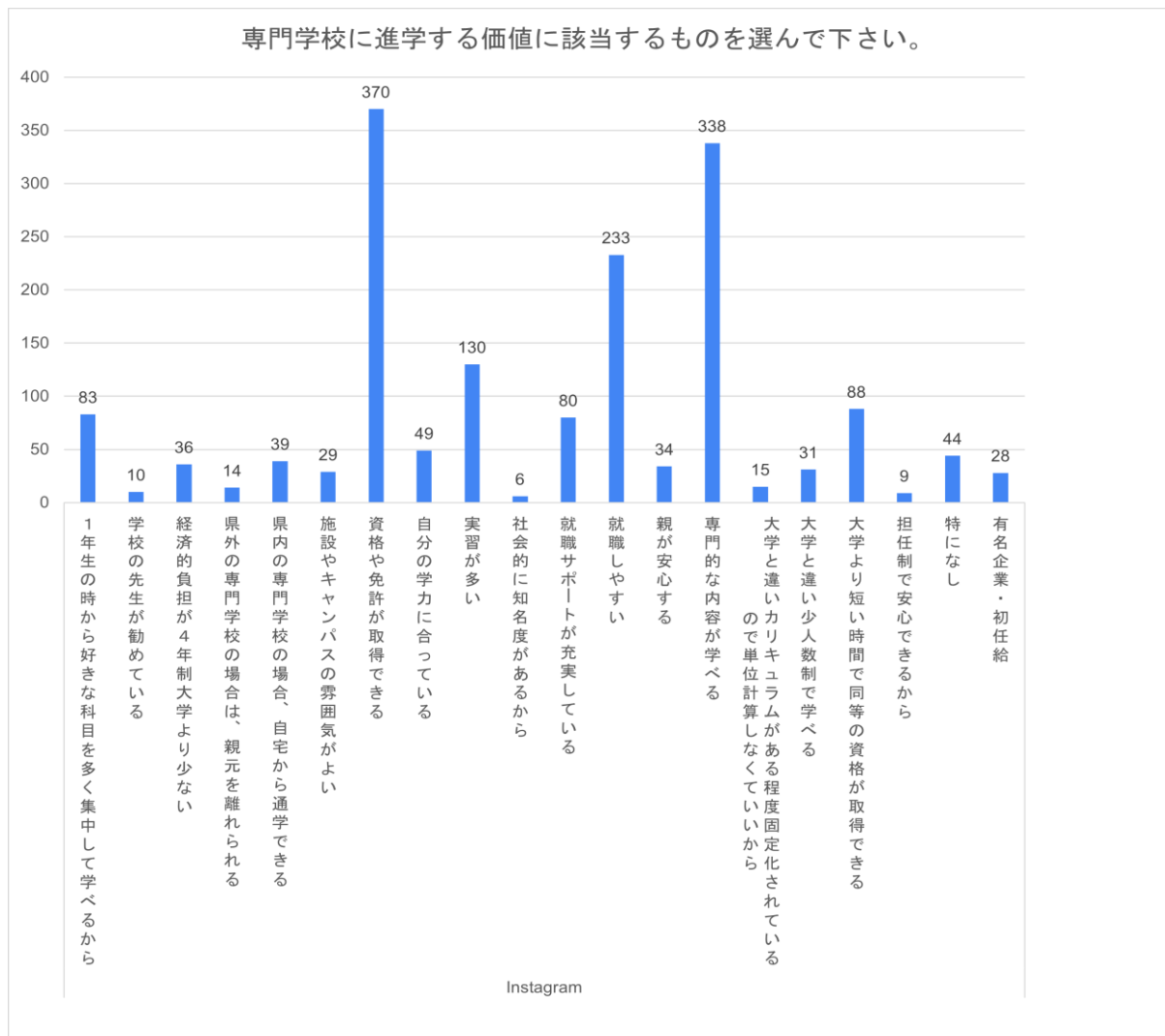
・X(エックス)の利用状況と専門学校に対するイメージ

「資格や免許が取得できる」が 249 票と最も多く、次いで「専門的な内容が学べる」が 222 票、「就職サポートが充実している」が 159 票である。一方、「親が安心する」は 23 票、「経済的負担が少ない」は 30 票にとどまり、専門スキルやサポート面が高校生にとって強いイメージであることが示された。



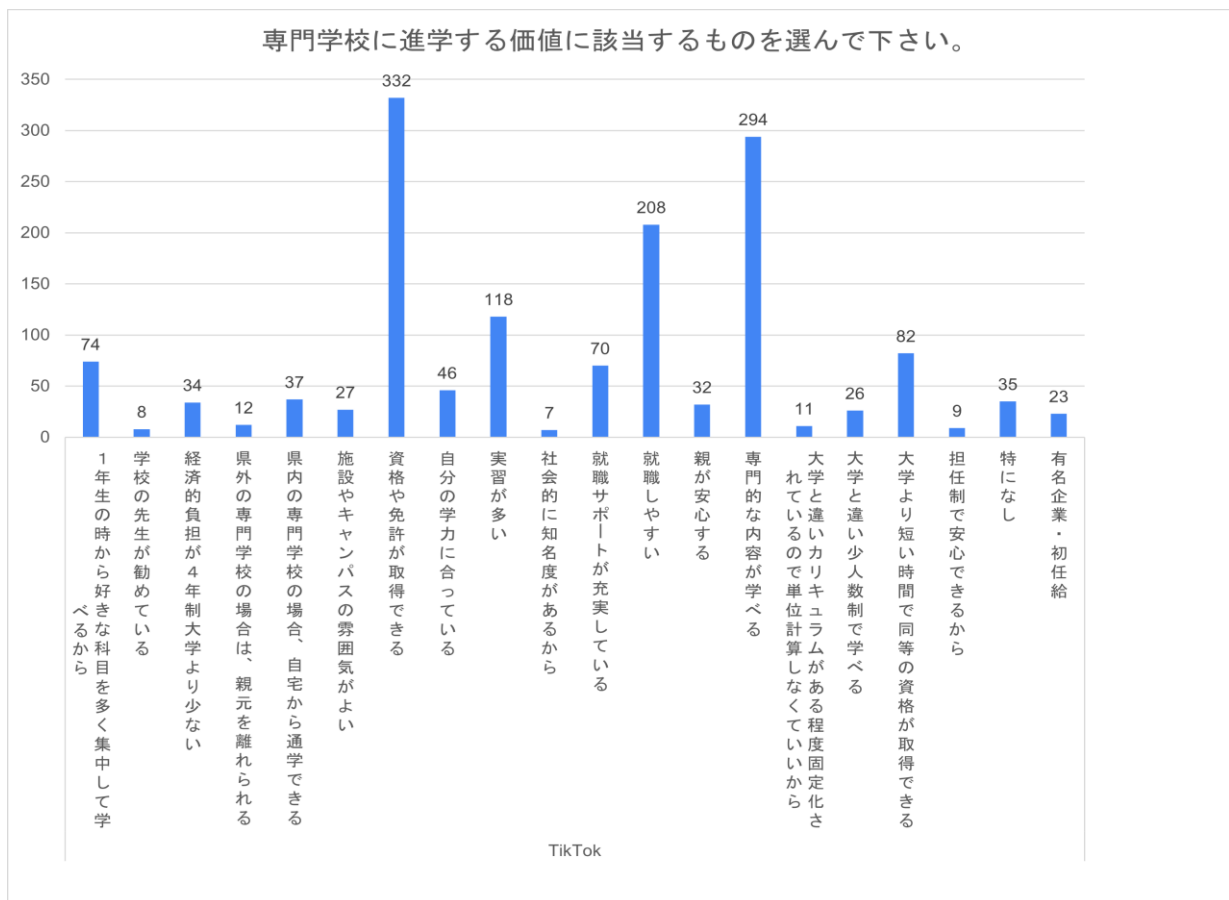
・YouTube の利用状況と専門学校に対するイメージ

「資格や免許が取得できる」が 391 票と最も多く、次いで「専門的な内容が学べる」が 363 票、「就職サポートが充実している」が 255 票である。一方、「親が安心する」は 38 票、「経済的負担が少ない」は 45 票にとどまった。YouTube 利用者にとっては、資格取得や専門分野の学習、就職支援が専門学校に対する強い価値として捉えられていることが分かった。



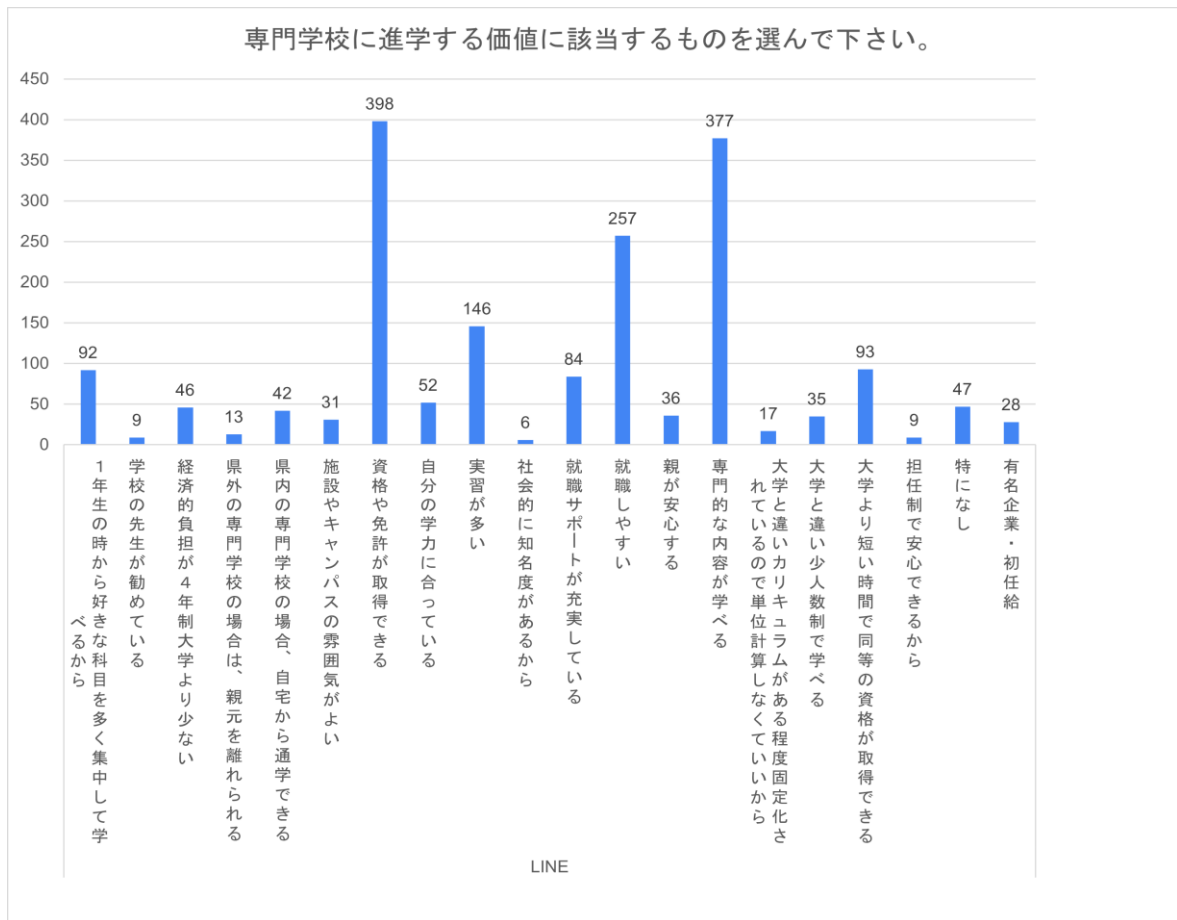
・Instagram の利用状況と専門学校に対するイメージ

「資格や免許が取得できる」が 370 票と最も多く、次いで「専門的な内容が学べる」が 338 票、「就職サポートが充実している」が 233 票である。一方、「親が安心する」は 34 票、「経済的負担が少ない」は 36 票にとどまった。Instagram 利用者では、資格取得や専門的知識の習得、就職サポートへの関心が高く、他の価値よりも実践的・具体的な進学理由が重視されている傾向が見られた。



・TikTok の利用状況と専門学校に対するイメージ

「資格や免許が取得できる」が 332 票と最も多く、次いで「専門的な内容が学べる」が 294 票、「就職サポートが充実している」が 208 票である。一方、「親が安心する」は 32 票、「経済的負担が少ない」は 34 票にとどまった。TikTok 利用者では、資格取得や専門知識の習得に加え、就職支援に対する関心も比較的高く、進学において実践的な価値が重視される傾向が示された。



・LINE の利用状況と専門学校に対するイメージ

「資格や免許が取得できる」が 398 票と最も多く、次いで「専門的な内容が学べる」が 377 票、「就職サポートが充実している」が 257 票である。一方、「親が安心する」は 36 票、「経済的負担が少ない」は 46 票にとどまった。LINE 利用者では、資格取得や専門知識の習得が圧倒的に重視され、次いで就職支援が進学の大きな動機となっていることが示された。

【クロス集計①:考察】

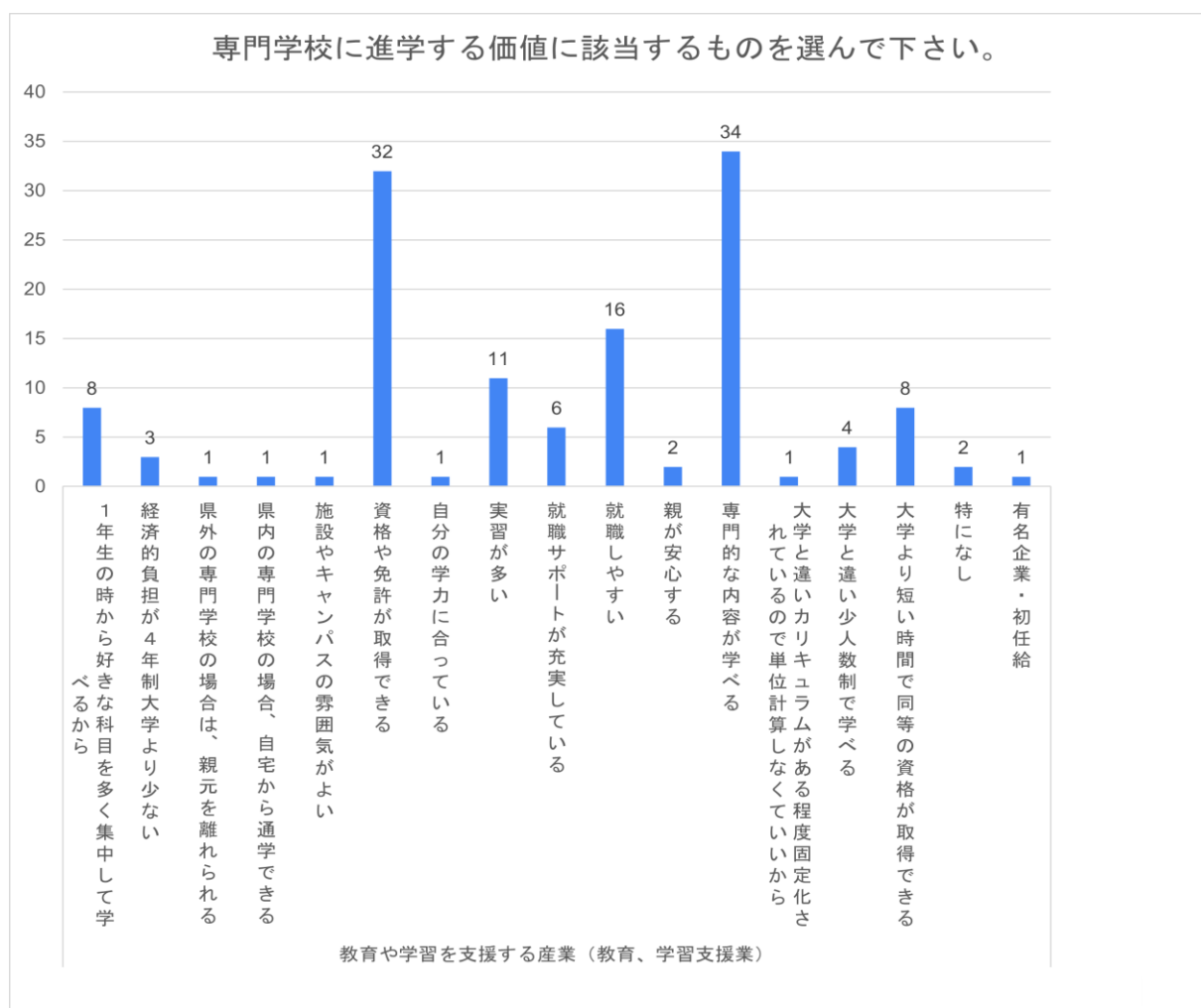
「利用している SNS を教えてください」の回答で多かった上位 5 つの項目(「X」「Instagram」「TikTok」「YouTube」「LINE」)について、「専門学校に進学する価値に該当するもの」をクロス集計した結果、どの SNS でも学生が重視する価値は大きく変わらなかった。

「資格や免許が取得できる」はすべての SNS で最も多く票を集め、特に LINE(398 票)と YouTube(391 票)では高い関心が示された。次いで「専門的な内容が学べる」も各 SNS で上位に位置し、LINE(377 票)、X(222 票)などで支持が高かった。また「就職サポートが充実している」は、TikTok(208 票)や LINE(257 票)で注目され、実践的支援に対する期待がうかがえる。

一方で、「親が安心する」や「経済的負担が少ない」などは全体的に票数が少なく、具体的な専門スキルや資格取得、就職サポートが学生にとって専門学校進学の主要な価値として捉えられていることが明らかとなった。これらの結果から、SNS 利用者層に関わらず、専門学校の実践的かつ具体的な価値が重要視されていることが示唆された。

【クロス集計②】 希望職業 × 専門学校のイメージ

●特定の職業を志望する生徒がどのように専門学校を見ているかを理解する。



・希望職業(教育・学習支援系)× 専門学校のイメージ

教育や学習支援系の職業を希望する生徒では、「専門的な内容が学べる」が 34 票と最も多く、次いで「資格や免許が取得できる」が 32 票となった。これは、教育分野への進学において専門知識や資格取得が重要視されていることを示している。一方、「就職サポートが充実している」は 16 票と中程度の関心を集め、「実習が多い」が 11 票となったことから、実践的な学びも一定の需要があることが分かる。

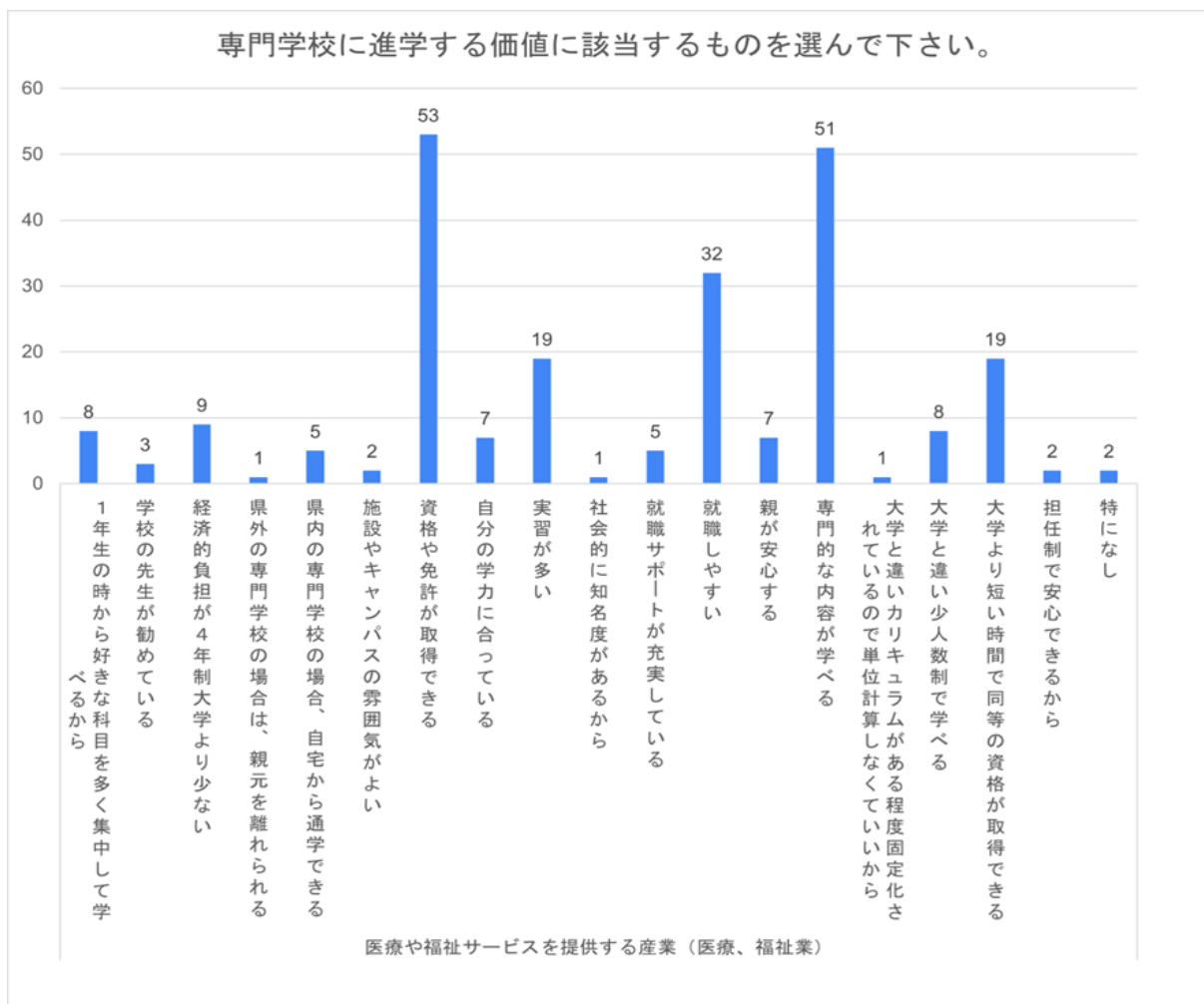
一方で「経済的負担が少ない」や「施設やキャンパスの雰囲気がよい」は 1 票にとどまり、学びの内容や資格の取得が進学動機として優先される傾向が顕著に見られた。教育や学習支援分野においては、専門学校が「学びの質」と「資格取得」に強みを示すことで、志望者のニーズに適切に応える情報提供が求められる。



・希望職業(生活関連サービス・娯楽業)× 専門学校のイメージ

生活関連サービスや娯楽業を希望する生徒では、「資格や免許が取得できる」が 44 票で最も多く、次いで「専門的な内容が学べる」が 37 票となった。これは、サービス業や美容、娯楽分野において資格取得や専門知識が重要視されていることを示している。また、「実習が多い」は 15 票、「就職しやすい」は 14 票と、実践的なスキル習得や就職のしやすさも評価されている。

一方で、「経済的負担が少ない」や「大学より短い時間で資格が取得できる」はそれぞれ 4 票と少なく、費用や期間よりも専門性や資格が求められていることが分かる。生活関連サービス・娯楽業を目指す生徒に対しては、資格取得のサポートや実践的な学びの充実度を強調することで、専門学校の魅力を効果的に伝えられると考えられる。



・希望職業(医療・福祉業)× 専門学校のイメージ

医療・福祉業を希望する生徒では、「資格や免許が取得できる」が 53 票と最も多く、次いで「専門的な内容が学べる」が 51 票となった。医療や福祉分野では、資格の取得や専門的知識の学びが進学の大きな動機となっていることが示された。また、「就職しやすい」は 32 票で、実務に直結する職業への就職支援に高い期待が寄せられていることが分かる。

一方、「実習が多い」が 19 票を集め、実践的な学びの需要も高いことがうかがえる。その他、「大学より短い時間で資格が取得できる」も同じく 19 票であり、効率的に資格取得を目指せる点が評価されている。医療・福祉分野を志望する生徒に対しては、専門学校が提供する資格取得支援、実践的な学び、そして就職のしやすさを具体的に伝えることで、進学の意欲をさらに高められると考えられる。

【クロス集計②:考察】

「将来の就職先として現在どんな業種を考えていますか」に対する回答の上位三項目(「医療・福祉」「生活関連サービス業・娯楽業」「教育・学習支援業」と「専門学校に進学する価値に該当するものを選んでください」)をクロス集計した。いずれの業種でも「専門的な内容が学べる」と「資格や免許が取得できる」が最も多く票を集め、専門学校が提供する具体的なスキルや資格取得の重要性が共通して認識されていることが分かった。

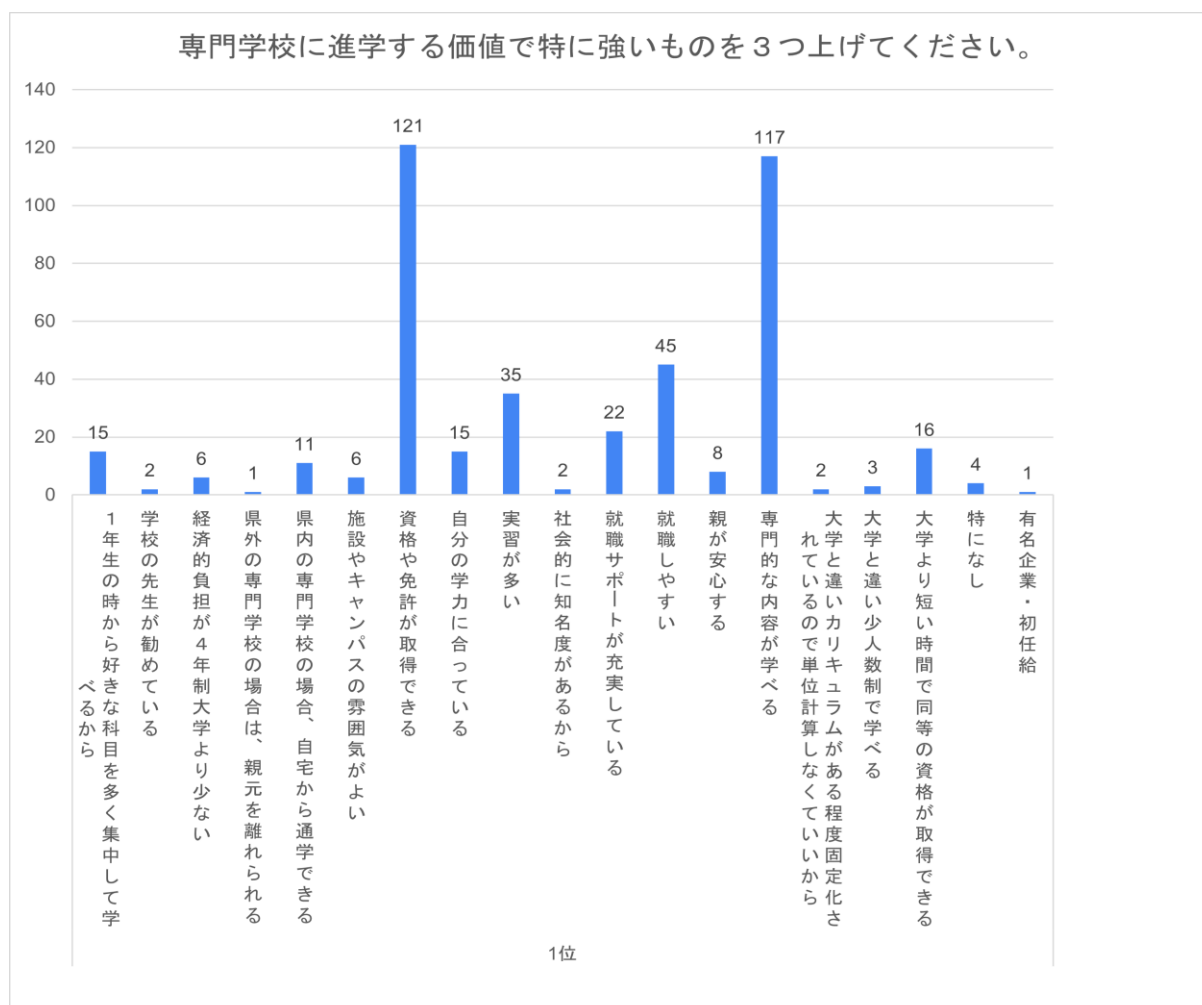
「医療・福祉」では「資格や免許が取得できる」(53 票)に加え、「大学より短い時間で資格が取得できる」(19 票)が他の業種より高い割合で選ばれ、短期間で実務に就ける点が特に評価されている。また「就職しやすい」(32 票)も高く、安定した職業への期待が示された。

「生活関連サービス業・娯楽業」では「資格や免許が取得できる」(44 票)や「専門的な内容が学べる」(37 票)が突出しており、特定分野の専門スキル習得が求められている。一方、「就職しやすい」(14 票)や「実習が多い」(15 票)も選ばれ、実践的な学びが重視されていることが分かる。「教育・学習支援業」では「専門的な内容が学べる」(34 票)と「資格や免許が取得できる」(32 票)が突出しており、学習分野でも知識や資格取得が進学理由として重要視されている。一方で「実習が多い」(11 票)が一定の票数を集めており、実務経験の価値も認識されている。

総じて、専門学校は希望職業に応じた「資格取得」「専門スキルの習得」「実践的学び」へのニーズに応える場として位置づけられており、各業種に合わせた情報提供が求められる結果となった。

【クロス集計③】 進学希望 × 就職に有利と思う要因

●専門学校を進学先として選ぶ理由が就職の有利さに関係しているかを分析。



・「進学先として希望順位をつけてください」の回答で「専門学校」を一位に選んだ学生と「専門学校に進学する価値で特に強いものを3つ上げてください」の回答をクロス集計した結果、「資格や免許が取得できる」が121票で最も多く、次いで「専門的な内容が学べる」が117票とほぼ同数で上位を占めた。これに続いて「就職しやすい」が45票、「実習が多い」が35票と、実践的な学びや就職支援が進学の動機として重視されていることが分かった。

【クロス集計③:考察】

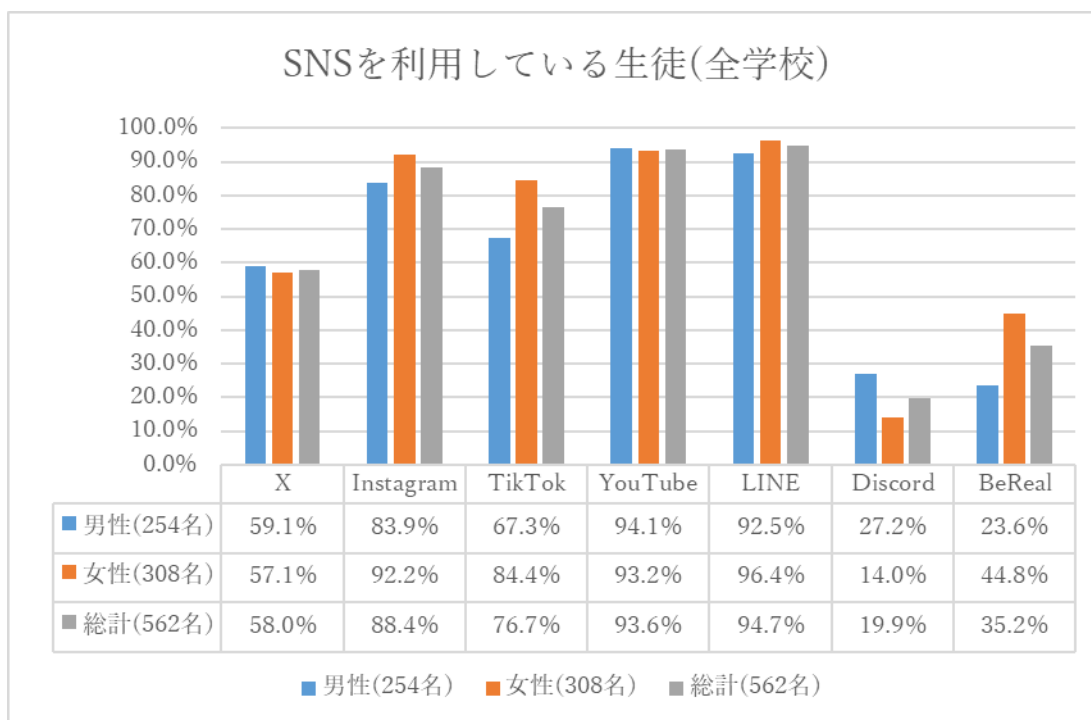
進学希望×就職に有利と思う要因の分析について、専門学校を第一希望とする学生にとっては、資格取得や専門的な学習を通じて、将来の職業に直結するスキルを得ることが最優先されていると考えられる。また「就職しやすい」と「実習が多い」の票数に大きな差が見られなかったことから、実践経験の豊富さが就職のしやすさに直結するという認識が共有されていることが示唆される。

さらに、票数は少ないものの「大学と違い少人数制で学べる」(16票)や「大学より短い時間で資格が取得できる」(3票)といった点も挙がっており、効率的かつ個別に学びやすい環境が専門学校の魅力として評価されている。

総じて、専門学校を希望する学生は、資格や専門知識の取得、実践的な学びを通じて、即戦力として働く準備ができる点を強く価値として感じていることが明らかとなった。これらの要素をさらに強調し、進学後のキャリアイメージを具体的に伝えることで、学生の志望意欲を一層高めることが期待される。

【特別集計：SNS 分析調査について】

SNS を利用している実態について高校別に集計したところ、以下の通りの SNS 利用率となった。



このグラフは、全学校(A 高校・B 高校を含む)における生徒の SNS 利用状況を示しており、全体的な傾向と男女差がより明確に浮き彫りになっている。

まず、YouTube と LINE は依然として利用率が非常に高く、全体で 93.6%(YouTube)および 94.7%(LINE)と、日常的な利用が定着していることが分かる。男女差もほとんどなく、世代を超えて広く浸透している SNS といえる。

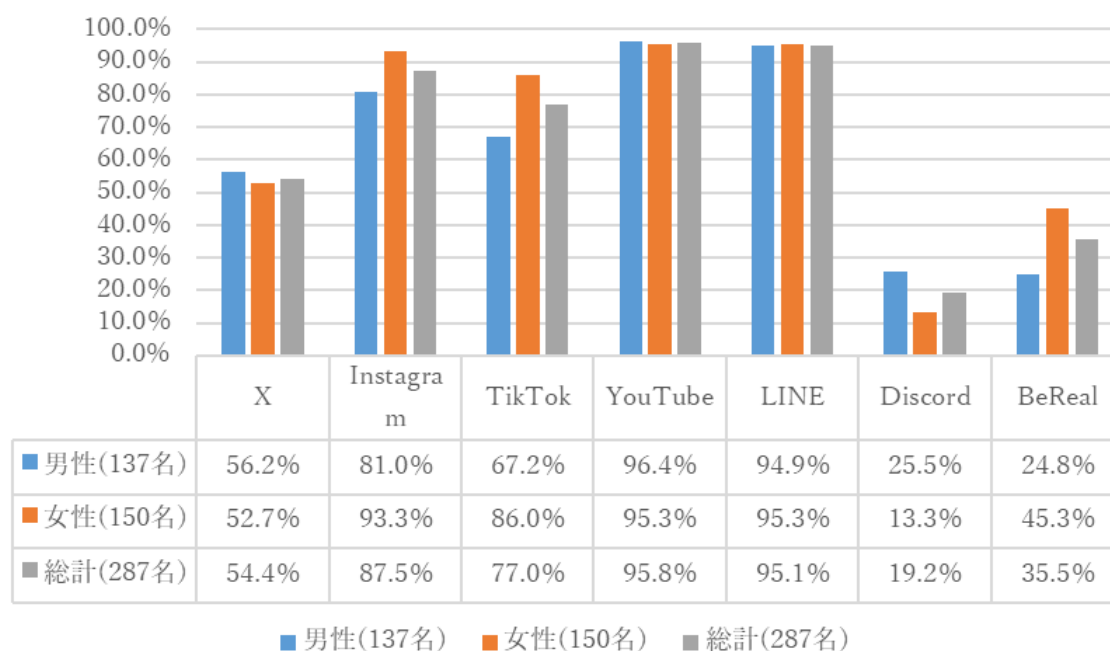
一方で、Instagram と TikTok は女性の利用率が男性を大きく上回っている。Instagram では男性**83.9%に対し、女性は 92.2%と高く、TikTok も男性 67.3%に対し女性 84.4%**と差が大きい。これらの結果は、ビジュアル中心の SNS が女性に人気である傾向が反映されている。また、X(旧 Twitter)の利用率は全体で 58.0%と低めであり、他の SNS と比べてやや控えめな印象である。男女差はほとんど見られず、特定の目的で利用している層が多いと考えられる。

BeReal に関しては、女性の利用率が男性の約 2 倍と顕著な差があり、男性**23.6%に対し女性は 44.8%である。女性の間で新しい SNS や日常共有型のアプリが人気であることがうかがえる。

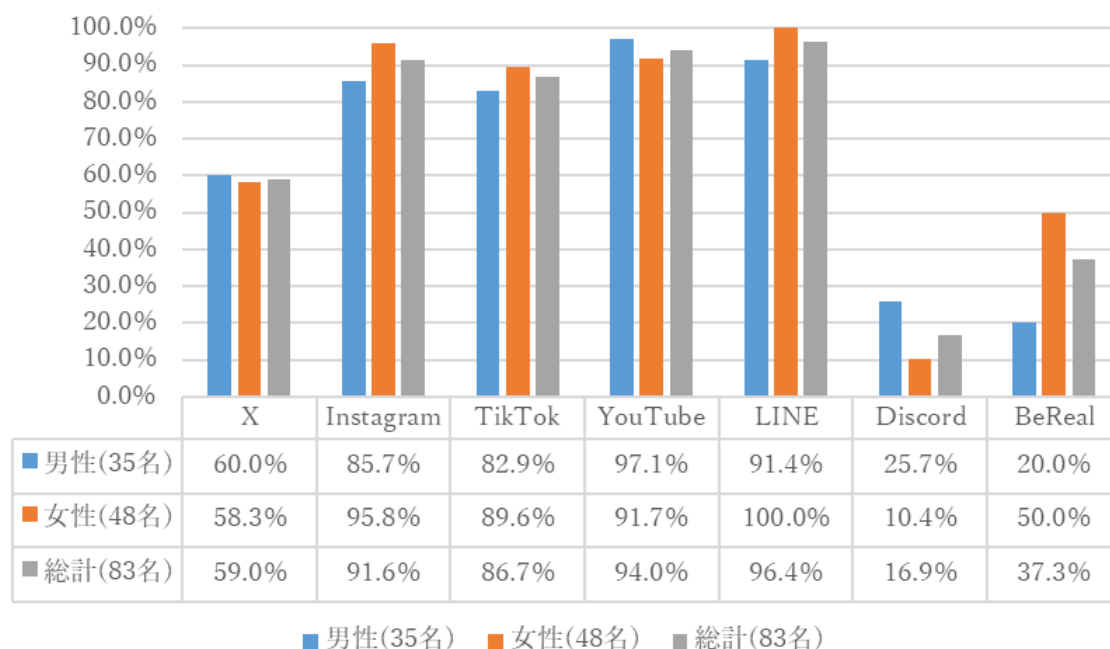
さらに、Discord は男性の利用率が女性を大きく上回り、男性**27.2%に対し女性 14.0%である。ゲームやコミュニティ向けの用途が男性を中心に利用されていることが明確である。

総括すると、LINE や YouTube は男女問わず高い利用率を維持している一方で、Instagram や TikTok、BeReal は女性の利用が目立つ。また、Discord のように男性の利用が多い SNS も存在し、性別や用途に応じた SNS の使い分けが行われていることが分かる。

SNSを利用している生徒(A高等学校)



SNSを利用している生徒(B高等学校)



A高校とB高校のSNS利用状況を比較すると、全体的な傾向には類似点が見られるものの、いくつかの興味深い違いが明らかである。

InstagramとTikTokでは、両校とも女性の利用率が男性を大きく上回っている。A高校ではInstagramの利用率が女性93.3%、男性81.0%であったのに対し、B高校では女性95.8%、男性85.7%とやや高い傾向である。TikTokもA高校よりB高校の方が男女共に利用率が高く、B高校の方がSNSへの依存度が高い可能性が伺える。

YouTubeとLINEの利用率は両校とも非常に高く、男女差はほとんど見られない。A高校のYouTube利用率は95.8%、B高校では94.0%とわずかな差である。一方、LINEについてはB高校の女性が100%利用している点が特徴的であり、日常的な連絡手段としての活用がより浸透していると考えられる。

BeRealに関しては、両校とも女性の利用率が高いが、B高校では女性が50.0%とA高校(45.3%)よりもさらに高い結果となっている。男性の利用は両校とも低く、SNS利用における男女の志向の違いが反映されていると考えられる。

また、Discordの利用はA高校と同様に男性が中心であるが、B高校では女性の利用率が10.4%とさらに低い数値となっている。これは、ゲームやコミュニティ向けのSNSが男性を中心に支持されていることを示している。

全体として、B高校の生徒はA高校よりもInstagramやTikTokの利用が積極的であり、特に女性のSNS利用率が顕著に高い点が特徴である。LINEやYouTubeの安定した利用も含め、B高校では日常生活にSNSがさらに深く浸透している傾向が見られる。

【A高等学校の学科別SNS利用率】

一番回答数が多かったA高校にて、「学科別」にてSNSの集計を行った。

	X	Instagram	TikTok	YouTube	LINE	Discord	BeReal
その他(英語・医療・わからない等)	61.3%	85.8%	78.3%	95.3%	94.3%	25.5%	33.0%
工業系学科	50.0%	50.0%	50.0%	100.0%	50.0%	0.0%	0.0%
商業・ビジネス系学科	53.5%	88.4%	83.7%	97.7%	97.7%	23.3%	41.9%
情報系学科	61.5%	100.0%	92.3%	100.0%	100.0%	15.4%	15.4%
総合学科	52.6%	94.7%	89.5%	94.7%	94.7%	15.8%	52.6%
普通科	47.2%	85.8%	68.9%	95.3%	95.3%	13.2%	34.9%
総計	54.3%	87.2%	76.8%	95.8%	95.2%	19.4%	35.3%

この表から、学科別のSNS利用傾向には顕著な差異が見られる。主なポイントを以下にまとめる。

●YouTubeとLINEの全体的な普及

YouTube(95.8%)とLINE(95.2%)は、どの学科でも極めて高い利用率を示している。特にLINEはコミュニケーションツールとして必須の地位を確立しており、学科間の差異が少ない点が特徴である。

●Instagram の学科間差

Instagram は全体で**87.2%と高い利用率を示しているが、学科ごとに微妙な差が見られる。例えば、ある学科では 100.0%に達している一方で、別の学科では 50.0%**と極端に低い数値も確認される。これは、ビジュアル共有型 SNS に対する興味や利用シーンが学科ごとに異なることを示唆している。

●TikTok の利用傾向

TikTok は全体で**76.8%の利用率だが、学科によってばらつきが見られる。高い学科では 89.5%に達する一方、低い学科では 50.0%**と半数にとどまるケースもある。エンターテインメントや短尺動画への関心が、学科ごとに異なる可能性がある。

●X(旧 Twitter)の利用率

X は全体で**54.3%と他の SNS と比較してやや低めであるが、学科によって利用率は 61.3%から 47.2%**と差が出ている。情報収集やニュース、趣味の発信といった用途に対するニーズが学科ごとに異なることが考えられる。

●BeReal と Discord の大きなばらつき

BeReal は一部の学科で**52.6%と高い利用率を示す一方、別の学科では 0.0%とまったく利用されていないケースもある。同様に、Discord も特定の学科では 25.5%に達するが、他の学科では 0.0%**である。これは、SNS の用途(リアルな日常共有やゲームコミュニティ)への関心や必要性が学科ごとに大きく異なるためであると考えられる。

●総括

学科別の SNS 利用状況には明確な差があり、LINE や YouTube のように全学科で高い普及率を示す SNS もあれば、Instagram や TikTok のように学科によって大きな差が生じる SNS も存在する。特に BeReal や Discord は学科ごとの興味・関心の違いが顕著に反映されており、学科ごとのライフスタイルや SNS 利用目的が異なることが示唆される。

4. 講評

(1)(1)調査概要

本調査は、山口県内の高校生を対象に、進路選択に関する意識を詳細に調査したものです。質問項目は、進路希望、進学先、将来のキャリア、専門学校へのイメージ、山口県へのイメージなど多岐にわたっており、高校生たちの進路選択に関する深い理解を得ることを目的とした。

(2)主要な傾向と考察

- ・進路選択の多様化と地域への意識
- ・進学希望: 進学希望者が全体の半数以上を占め、大学、専門学校、短大への進学を検討している。
- ・進学先: 県内と県外の進学を希望する割合がほぼ同数であり、地元への愛着と同時に、より広い世界へ羽ばたきたいという意欲も強いことが伺える。
- ・将来のキャリア: 医療・福祉、美容、IT など、多岐にわたる分野への関心がみられる。また、具体的な職業名まで回答している学生もあり、将来像を明確に描いている学生が多いことがわかる。

(3)専門学校への期待と不安

- ・専門学校への期待: 専門学校は、短期間で専門的な知識やスキルを習得できる点、就職に強い点が評価されている。
- ・専門学校への不安: 一方で、専門学校に関する情報不足や、大学との比較における優位性について疑問を持つ学生も一定数存在する。

(4)山口県へのイメージ

- ・地元への愛着: 山口県への愛着は根強く、自然や人情味といったポジティブなイメージを持つ学生が多い。
- ・地域への貢献: 地元の企業に就職したいと考えている学生もあり、地域への貢献意識が高いことが伺える。

(5)SNS 利用状況

- ・SNS の浸透: 現代の高校生は、SNS を日常的に利用しており、情報収集やコミュニケーションの手段として活用している。
- ・情報発信: SNS 上で積極的に情報発信を行っている学生も少なくないことから、自己表現の場として利用していることがわかる。

(6) 専門学校に関する詳細分析

- ・専門学校の魅力:資格取得、実践的な学び、短期間での就職といった点が魅力として挙げられている。
- ・専門学校への不安: 学費が高い、情報が少ない、大学との違いがよくわからないといった点が不安として挙げられている。
- ・専門学校への期待: 専門学校では、自分の興味のある分野を深く学べると期待している。

(7) キャリアプランに関する分析

- ・自己評価: 自身の能力については、客観的な自己評価ができている学生が多い一方で、将来のキャリアについては、まだ漠然としたイメージを持っている学生もいる。
- ・仕事選びの基準: 好きなこと、得意なこと、将来の安定などを重視しており、多様な価値観に基づいて仕事を選んでいることがわかる。

(8) その他

- ・山口県へのイメージ: 山口県を「のどかで安心できる」「自然が多い」と評価する一方で、「交通機関が少ない」「人が少ない」といったネガティブなイメージを持つ学生もいる。
- ・進路相談: 親や学校の先生に相談する学生が多く、周囲の意見を参考にしながら進路を決めていることがわかった。

(9) 今後の課題と展望

- ・専門学校に関する情報提供の充実: 専門学校に関する正確な情報を提供し、学生の誤解を解くことが重要である。
- ・地域との連携強化: 地域の企業や大学と連携し、高校生が地域の魅力や進路選択に関する情報をより深く理解できるような機会を提供する必要がある。
- ・キャリア教育の充実: 高校生のキャリア意識を高め、自己理解を深めるためのキャリア教育の充実が求められる。
- ・本調査の結果を基に、高校生がより良い進路選択ができるよう、学校や地域社会全体で支援していくことが重要である。

(10) まとめ

本調査は、山口県内の高校生を対象に、進路選択に関する意識を詳細に調査したものです。その結果、現代の高校生は、多様な情報源を活用し、自分自身の将来について真剣に考えていることが明らかになった。

特に、専門学校への関心が高まっていること、そして、地域への愛着と同時に、より広い世界へ羽ばたきたいという意欲を持っていることが特徴的です。専門学校の魅力としては、短期間で専門的な知識やスキルを習得できる点、就職に強い点が挙げられる。

一方で、専門学校に関する情報不足や、大学との比較における優位性について疑問を持つ学生も一定数存在する。

キャリアプランについては、自己評価ができている学生が多い一方で、将来のキャリアについては、まだ漠然としたイメージを持っている学生もいる。仕事選びの基準としては、好きなこと、得意なこと、将来の安定などを重視しており、多様な価値観に基づいて仕事を選んでいることがわかる。山口県へのイメージは、自然や人情味といったポジティブなイメージを持つ学生が多い一方で、交通機関が少ない、人が少ないといったネガティブなイメージを持つ学生もいる。進路相談は、親や学校の先生に相談する学生が多く、周囲の意見を参考にしながら進路を決めていることがわかる。本調査の結果を踏まえ、高校生がより良い進路選択ができるよう、学校や地域社会全体で支援していくことが重要です。具体的には、専門学校に関する情報提供の充実、地域との連携強化、キャリア教育の充実などが挙げられる。

専門学校の特長や魅力を積極的に発信し、学生一人ひとりの個性や希望に合わせたきめ細やかな進路相談を行うなど、より多くの高校生にとって魅力的な教育機関となるための取り組みが求められる。

文部科学省委託事業
令和 6 年度「地方やデジタル分野における専修学校理系転換等推進事業」
「地域中小企業と連携による IT 担当者育成・採用促進モデル開発と普及推進事業」

高校生地域進路意識調査報告書

令和 7 年 2 月
学校法人 YIC 学院
〒754-0021 山口県山口市小郡黄金町 2 番 24 号

●本書の内容を無断で転記、掲載することは禁じます。